
学園黙示録に自ら向かった少年

α

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

学園黙示録に自ら向かった少年

【Nコード】

N4635N

【作者名】

α

【あらすじ】

まずは、起きたことを簡単に説明するぜ。オレは神とやらの故意に殺されたらしい。しかも、奴は殺したのにオレに生き返れと言う。しかも、転生という形で。正直最初はふざけんなって思ったよ。だが、奴に転生先の世界を聞いて驚いたぜ。何故なら、奴が言う転生先はオレの行きたかった学園黙示録の世界らしいじゃねえか。それなら、喜んで行ってやるよ。しかも、チート能力も貰えたしな。よし、この力で暴れまくってやるぜ！！！！！！

尚、この小説は亀更新なので気長に待てないという人は回れ右でお願いします。

また、原作ブレイク&チートが嫌いな方も回れ右でお願いします。

* ユーザーページにて、月ごとにその月の更新目標（更新予定）を掲載しております。

* パソコンとPSS3の修理終了の時期が分かりました↑詳しくは活動報告を

まずは、ご挨拶から

はじめてまして、これより学園黙示録の二次創作（FF）を書かせていただきますαと申します。

この小説は受験生（高校受験）である私が半ば現実逃避のような勢いで書き始めた小説であります。また、いままで小説を書いたことのない私が書く小説でもあります〓もちろん処女作です。なので、言葉に矛盾がある、表現が伝わりにくい、漢字が間違っているなどのようなことが多々あると思いますが小説を書いていく上で成長し、そのようなことは無くすよう努めますが、皆様にも指摘して頂けるとありがたいですm（――）m

まずは、ご挨拶から（後書き）

1話の投稿は夕方頃、2日後になると思います。

こんな小説でも読もうと思ってくれた方々に感謝。

第1話：神？との出会い（前書き）

夕方頃」とか言っていました。が頑張って書き上げました。

今回はまだ学園黙示録の世界には行きません。サブタイの通り神との出会い（遭遇）です。おそらく、二次作中、珍しく神等の存在が話を多くしてるかもです。

第1話：神？との出会い

オレの名前は潮目くしおのめ、晃くアキラ

少し現代の日本人とは感性がズレてるオタクな高校生だぜ。

ん？何がズレてるかって？それは、オレが人が血しぶき上げて死ぬのが好きだったり、ゾンビがリアルにいる世界に行ってみたいと思っ
ているからだ。まあ、勿論自分が死ぬのは嫌だがな。死ぬ時は自分の
寿命で死にたいしな。

話は戻る？が、オレ的には、リアルなゾンビがいる世界って線だと
学園黙示録の世界が個人的にはいいな。だって、走ったりするゾン
ビなんて他の漫画とか映画、ゲームじゃ見ないし、走ったりする方
が面白そうだしなww

そんな、オレこと潮目 晃は只今意味不明な状態に陥っている。

見渡す限りの白い空間…

「……どこぞ？」

ほんとーにここがどこか教えて欲しいよ… あ、それと、オレがこ
こに居る理由も。

「ならワシが答えてやろうでわないか」

ん？誰だこいつ？

「おい！お前は誰だ？いつからそこにいた？」

「いつからと言われてものう、お主にも見えるようにしたのは今じゃが、ワシは前からこの空間にいるしものう。」

「どういう事だ？前からいるがオレに見えるようにしたのは今だともしや、コイツは人間ではなく別の何かなのか？だが、それ以前にこの空間の説明とオレがここに居る理由をまだ聞いてないぞ。」

「いや、それはお主がワシの正体を聞いてきたからじゃろが」

「そついやそうだったなあ。ん、待てよ。何でオレの思考がコイツには読めるんだ？」

「うむ、それはワシの種族のもつ特殊能力のようなものです。ワシの正体、いやワシらの正体は神などと言われておる存在じゃ、故にワシらよりも下位の存在の思考が読めるのじゃ。」

「マジか。オレ、リアルに神にあつまつたぜ。そついやオレが読める理由は？」

「それと、新たな疑問だ、こいつはワシらよりも下位の存在の思考は読めると言った。なら、神に対する上位存在ってのはなんだ？つか、しゃべらなくても会話が成り立つって便利だなwww」

「まず、お主がいる理由じゃが、それはワシが故意にお主を殺した。それと、神に対する上位存在というのは、創造主というすべての理、存在、世界を作った方じゃ。」

へえ、そんなヤツがいるのか。ってちょっとまで、今こいつ、オレを故意に殺したのがここに居る理由だって言っただけ、ならオレは死んだんだよね、しかも寿命でもなくミスでもなく神が故意に殺したのが理由って言っただけ…

「おい、神という名のゴミ、オレがここに居る理由は故意にお前が殺したかららしいな…。思考が読めるってんならオレが誰かに殺されるのが嫌いってのは知ってんだろ???」

「いっぺん逝かすか?こいつ。今のオレならできる気がするぞwww
ww

「まあ、待て。ワシがお主を殺したのはワシの探していた性格をもった人物というのがお主にピッタリで、その者にしてもらいたい事をするにはここに来てもらうしかなくて、それでお主を殺したのじゃよ」

「とりあえず話を聞いてやろうじゃねえか」

「そっぴやオレ、キレてから普通に会話し出したな。まあ、いっか。」

「うむ、してもらいたい事というのは転生じゃよ。しかも、生存フラグを建てなきゃいかんようなハラハラした世界におく」

「ん?生存フラグを建てなきゃいけない世界に転生で。しかも、オレがピッタリってことは、もしかして!」

「おい、神もじゃ、オレに転生してもらいたい世界ってのはもしかしてリアルゾンビが居る世界なのか?!」

「よく、気づいの。そうじゃ、お主に行ってもらいたい世界とい
うのはリアルゾンビが居る世界、学園黙示録の世界じゃ！」

「どうじゃ、お主にピッタリじゃろ。」

マジかよ……。よつつつしやーーーー！！！！

神、ゴミとかいってごめん！！！！あんたいいやつだよ！！！！！！

「しかも、ワシの力で好きなだけお主のことを強化（能力付加）し
てやるぞ。」

「マ・ジ・で………？」

「真剣、又は本気と書いてマジじゃよ」

ふふふ、強化か、あの世界を楽しみたいし、かといって弱いのは
却下だな。どうしようか。

「よし、決めた！」

「ほう、何にしたのじゃ？言ってみろ」

「じゃあ、最初に、今から言う人物の経験・技能・技（業）と言っ
た中の人物のいいとこどりした身体能力をくれ。」

「うむ、分かったぞ」

「じゃあ、言うぞ。草壁 操、ザ・ボス、雷電、ソリッド・スネー
クの4人だ。」

「うむ、分かった」

「次は能力だ、無限の剣製の銃ver.で、もち固有結界で世界侵蝕可能とアイオンの眼の副作用（代償）をなしにしたヤツをくれ。あと、能力じゃないが草壁七剣をくれ。」

「うむ、分かったぞ。だが、いきなりチート過ぎではないか？それと銃の方はMGS関連なら銃以外でも出せるようにしておくぞ、その方が便利じゃろって」

「まあ、自分でも行く世界にしたらチート過ぎだと思いがあくまで保険だ。それから、銃の方はありがとな。」

「最後はさっき言った人物達の体に＜奴ら＞化しないように独自の抗体をもっているようにすること、吸血鬼の真祖並みの回復力だけをくれ。＜奴ら＞化しなくても肉を持っていかれたまんまってのはかなわないからな。」

「うむ、分かった。それで最後じゃな」

「ああ、最後だ。」

「そうか、ではお主を送り出すとしようか。その扉をくぐれば転生するようになっておる。ではな。」

「親切にありがとうな。だが、最後に聞いておきたい。何故ここまで良くしてくれるんだ？」

「なに、ただの気まぐれと暇つぶしじゃよ。長年ここは、変化がないのでおもしろ味がないのでな。誰かを転生させてその人生を見よ

うと思ったのじゃよ。」

「そうか、じゃあな、神さんよ。もし、また会ったら、そんなときやよろしくな。」

そう言っオレは門をくぐった。オレが行きたかった学園黙示録の世界に向かうために。

第1話：神？との出会い（後書き）

ちなみにソリッドを入れたのはザ・ボスだけだと最近の銃などの使い方が分からないからです。

口調に違和感がないか心配だ…。

改行し過ぎて見にくい、ここは改行した方がいいという所があったらアドバイス等願います。あと、創造主が作ったものとかに追加した方がいいと思うものがあつたら教えてください。

読んでくれた方々に感謝

第2話：転生完了。 神からの状況説明（前書き）

27件のお気に入り登録ありがとうございます!!

親に見つかり9/10までネット（サイト制限？）封印されてました…、亀更新とか言いながら親の封印で遅れパターンでは罪悪感が

………

今回もサブタイ通りの話です。一応世界には行きましたがまだ物語には影響ありません。

では、待っていてくれた方々どうぞ

第2話：転生完了。神からの状況説明

「知らない天井だ…」

ん？転生ってことは赤ん坊からじゃないのか？

まあ、勿論赤ん坊からじゃない方が嬉しいがな。それよりも、なんで言葉がちゃんと発音できるんだ？

「（気が付いたようじゃの）」

その声は…まさか！？神、あんたか！

「（そうじゃお主に今の状況の説明をしようとおもつての、念話でコンタクトをとっているんじゃない）」

そついうことか。分かった。ならオレの今の状況を教えてくれ。勿論言葉をちゃんと何故発音できるかも含めてな。

「（うむ、お主の今の肉体年齢は4歳で、原作開始の14年前じゃな。）」

え…、どういうことだ。原作開始前つてのは分かるが、肉体年齢が4歳だと！

おい、これって、転生じゃなくて、憑依っていうんじゃないのか？つか、肉体が4歳に成長するまでの記憶はどうなるんだ

「（何、これは、ちゃんとした転生じゃわい。肉体年齢が4歳なのはワシのちよつとしたアフターサービスじゃよ。記憶の方は安心せい。ワシが念話をきった時に自動で入るようにはしておるからの。）」

アフターサービスだあ？どういうことなんだ神？
まあ、とりあえず記憶の件は安心安心。

「（それはのお。ワシの他にも誰かを転生させて人生を見るヤツはいるんじやが、そやつらの話じやと、赤子からの転生だと苦情などが多いらしいのでな、ワシがその肉体にお主の人格を模した飯の魂を入れてある程度育てから、お主の魂をその肉体に入れたのじやよ。」

なん…だと……。神のアフターサービス、サービス良過ぎだろ。
ん？ってことは、オレ以外にも故意に殺されたりしてどっかに転生したりするやつはいるんだな。だが、苦情があると……。……………この神以外に転生させられた皆さんご愁傷様〜

「（まあ、確かにワシ以外に転生させられたヤツはご愁傷様じやな。」

神でもご愁傷様とかいうんだな。つか、言っているのか…
それと神、今が原作開始14年前ってことはオレはどんなポジションで生まれた（育った）んだ？

「（それか。お主はこの学園黙示録の主人公の小室 孝の1歳年上で、その孝の兄じやよ。」

「（それと、名字は勿論変わっておるが、名前は変わっとらんので安心せい。」

え……………、えええええええええ。

マジかー！！！！主人公の兄貴だと、しかも名前変わってないんだ。まあ、晃って名前は気にいったから、あんま気にしないけど。

「（それから、お主に言うことがあったんじゃない？）」

オレに言うことってなんだ？神のじいさん。

「（それは、お主の望んだ固有結界に関係があることでの。お主が門をくぐってからお主自身の固有結界を調べたんじゃない。）」

ん？それが、オレに言うことと何が関係あるんだ？

「（それがな、お主自身の固有結界は変革・改変じゃったんじゃない）」

まあ、確かに小さい頃から日々の変化を望んでたけど。変革と改変だと…、オレ自身の固有結界なんてチートw

「（それでな、お主が望んだ能力の固有結界で世界侵蝕を可能にしたから、お主自身の固有結界での世界侵蝕が出来なくなっておるんじゃないよ。）」

なんだってー！！まあ、銃だけでもいいけど、やっぱり自分の固有結界で侵蝕もしたかったぜ…

「（じゃがな、お主自身の固有結界と望んだ能力の固有結界の組み合わせがかなり良くての。お主自身の固有結界で能力の固有結界から取り出せる（投影できる）銃などが改造できるようになっておるんじゃないよ。まあ、どこまで組み合わせることが出来るかは分からない。）」

マジで…、オレ自身の固有結界どんだけチートだよ。ここまで来た

ら呆れるぞ…

「（たしかに、ワシも最初は呆れぞ。あとは、アイオンの眼のことでの、ワシが幾つかいじくったんでな。その説明じゃな）」

アイオンの眼をいじくったってことは目の色とか能力か？

「（そうじゃ、いじったのは目の色のことじゃよ。流石に、神のみが持つと言われておる金色の目（神眼）のままじゃとなにか言われるかもしれんな。）」

そういうことか。それなら問題はとくにないな。サンキュー神。

「（言い忘れておったが、流石にアイオンの眼の能力を発動してる時は目の色は金色になるからな。それと、お主自身が良いのなら日常生活でも目の色だけ変えて過ごすよにもしておいたからの。）」

「（それと、お主の望んだ能力も念話をきってから与えるようにしておるからな。）」

それでさっきから何の力も感じない訳か。納得納得。

アイオンの眼は気分かなあゝ

「（では、そろそろ念話をきるぞ。なにか問題があった場合はまた念話で連絡をとるから安心せい。では、元気に第二の人生を楽しめよ。）」

ああ、ありがとな神。

オレがそう言った（思考を送った）後、神との念話は途絶えた。

第2話：転生完了。神からの状況説明（後書き）

はい、実は何気に主人公もとからチートでしたw
でも、改革・改変より改造・付加しかよかったかな？銃だし

神眼についての情報は昔大学のダチに借りて読んだ本からの知識です
ので間違ってたらゴメンナサイ。

あと、皆さんに意見を聞きたいんですが

- 1：次話からいきなり原作スタート
- 2：幼少の話を少し入れる
- 3：その他

のどれがいいですかね？

感想のどこかに番号入れてくれたらありがたいです。3の場合はその他
〃それ以外の進め方も記入してください。

では、読んでくれた方々に感謝。お気に入り登録してくれた方々に
大感謝。感想くれたXG-70d 凄乃皇・四型様に極感謝。m（

ー ー ）m

これからよろしくお願いします！！！！

主人公設定（随時追加予定・最終更新日10/3）（前書き）

遅くなりました、9/14の02:20〜02:30ごろに投稿したのですが、エラーが発生して消えてしまい（涙）今まで書いておりました〜

サブタイのように随時更新型なので追加して欲しい、したほうが良いものが有った場合は気軽に言ってください。

*10/3、一部修正。*10/3、魔力・魔術回路を追加。*10/3、特殊抗体に一部追加・修正。

主人公設定（随時追加予定・最終更新日10/3）

名前：小室くこむろ>晃くあきら>

容姿：MGSの雷電の灰色の髪ver.であり原作開始までの一時期までは目の色は蒼だったが、原作開始の少し前から蒼と金のオツドアイにしている。

*髪の色は雷電のようなシルバーブอนด์ではなく、あくまで灰色です。ややこしかった人は間違えないようにしてください。

性別：男

身長：181cm

一人称：オレ

・普段の性格：一言で言うとSである。だが、割と温厚な部分もあり自身が知っている人ならば可能な限り助けるが、自身の知らない人、又は自分が気に入った人（自分が嫌いな人）以外は容易く切り捨てることも出来る性格である。

・戦闘時の性格：転生する前から自身の性格に異常性があつたため、

命を奪うことに何の嫌悪感はない。また、戦闘がどんどん過激になり血が飛びかうほど興奮する。血を浴びたりした場合でも興奮するために、原作組み等からは、この戦闘時の性格は恐れられている。
* 分かりにくい人は、コードギアス反逆のルルーシュに出てくるルキアーノ・ブラッドリーの弱い版？の性格を想像してください。

・ 身体能力1：基本的な身体能力のベースは雷電になっているため、8階建ての高さぐらいからなら落ちても強化なしで普通に着地可能であり。強化なしでもイージス艦が自分に向かって突撃してきても力比べがガチで可能。動体視力は銃弾を軽く視認出来るぐらいである。

・ 身体能力2：真祖の吸血鬼並みの身体回復能力を保有しており、またMGSのヴァンプのナノマシンが体に入っているため体が二つに切られたり、ナノマシンを止められない限りよほどの事では死ない（不死もどきの状態）、ただしグレネードやロケットランチャーなど真正面から喰らうと体の部位のほとんどが持っていかれる（粉々になる・ただの肉の塊になる）ような攻撃などでは流石に死ぬ。
* ただし腕一本や足一本ぐらいならナノマシンが即座に傷口を塞ぎ、真祖の回復力によって腕・足が再生出来るため動きは一時的に制限されるが致命傷ではない。

・ 身体能力3：草壁 操から継承されたものの中に鬼の血が入っているために妖力が、また、草壁 操のような達人なら使える気が草壁 操の経験等によって使用可能になっている。

・妖力・氣：保有している総量などは、氣は一般人、妖力は草壁一族の下の上ぐらいの実力者とあまり変わらない量だったのだが、自身の持つ固有結界により総量の変更が出来るため、本人に取ってあまり総量など意味は無い。また、この力を使う事によって自身の身体能力を強化したり武器などの強度を向上させることができる。

・魔力・魔術回路：保有している魔力の総量や魔術回路の本数などは、魔力は裏世界（魔術・魔法世界）に関わっている人間の実力者でいうと中の下ぐらい、魔術回路は30本であるが、自身の持つ固有結界により妖力・氣と同じように総量や本数の変更が出来るため、本人に取ってあまり総量や本数など意味は無い。また、この力を使う事によって妖力・氣とは強化の系統は違うが、自身の身体能力を強化したり武器などの強度を向上させることができる。

・草壁七剣の収納場所：草壁五宝として数えられている、小烏丸天国、雷切、火車切広光、鉋切長光、真打・童子切安綱は、草壁操から継承された技術などに含まれていた術によって指の爪にそれぞれ一本ずつ収納されており、草壁操の持つ、鬼切、蜘蛛切は同じく継承された技術に含まれていた術によって両腕に収納されている。

・スキルやそれに近いもの（長いのは幾つかに区切っています）

CQC・極：ザ・ボスの持つ極限まで鍛え上げられたでCQCあり敵の持つ銃などが、自身が構造を把握している銃ならばCQCをかけると同時に武器分解可能な兵士泣かせなCQC。*スキル使用後の反動は純粋な身体技能であるためにない。

ウェポン・マスター（ver・ガン）1：あらゆる銃火器を極めたもののみが持つ事のできるスキルであり、あらゆる銃火器などの反動などが分かっているために、銃を指切りせずにフルオート射撃を行った場合でも衝撃の吸収が効率的であり、無駄弾などが殆どない上に熟練の兵士でさえも片手で扱う事の出来ない銃でも片手で扱う事が可能である。*スキル使用後の反動は純粋な身体技能であるためにない。

ウェポン・マスター（ver・ガン）2：銃の射程や距離による銃弾の威力減衰なども分かっているために、ハンドガンなどの威力減衰が激しい武器でも効率的な射撃が可能であり、スナイパーライフルなどでは観測手なしでも、弾のズレなどを予測し、修正、命中させることが可能である。*スキル使用後の反動は純粋な身体技能であるためにない。

無限の銃製<アンリミテッドガンズワークス>その1：神に望んだ能力であり無限の剣製<アンリミテッドブレイドワークス>の銃verである。銃というジャンルに分けられているものなら制限無しに取り出せる（投影できる）ことが出来る。更に、この能力の元

となつた無限の剣製<アンリミテッドブレイドワークス>のように、多少精度は落ちるが、服なども取り出せる（投影できる）ようである。

無限の銃製<アンリミテッドガンズワークス>その2：神のサービスによりMGS関連なら銃以外も取り出せる（投影できる）ようになっていたため、銃とはほど遠いジャンルに分けられているものや現在の科学力では作れないようなものでもMGS関連ならば取り出す（投影できる）ことができる。

例、メダルギア・アーセナルギア・ナノマシン・ソリッドアイ・核
e t c .

無限の銃製<アンリミテッドガンズワークス>の反動等：スキル使用後の反動は銃などの物ならば反動はないが、メタルギアなら二日酔いの二倍レベルの頭痛が四日間、アーセナルギア級のものなら、一週間〜二週間ほど意識が飛ぶ。尚、核兵器は本人が取り出した（投影した）ことが無い（使用する気が無い）為にどの位の反動なのかは不明である。

改革・変革：自分自身が元からもっていた固有結界（能力）であり、元はあらゆるものを自身の思うように変えたり、付け加えたりする能力だったが、神に望んだ固有結界の影響によりいくつか制限が付いている。

* 自分自身に対して能力を使う場合は制限は無いが、生命としての限界を超えた行為は行使出来ない。

無限の銃製<アンリミテッドガンズワークス>と改革・変革の併用
1：本来、固有結界は一人につき1つなのに対して、主人公は2つの固有結界をもつ為に、自身が元から持っていた改革・変革による世界侵蝕などが出来なくなっている。しかし、この固有結界はお互いが持つ能力の相性が良い為に、無限の銃製<アンリミテッドガンズワークス>を通してならば、幾つかの制限が付くが改革・変革の能力は使用出来る。

無限の銃製<アンリミテッドガンズワークス>と改革・変革の併用
2：改変・改革による世界侵蝕は出来ないが、無限の銃製<アンリミテッドガンズワークス>によって世界侵蝕したさいに、自身を上位に世界を下位にした場合ならば世界等からの影響を受け無いために改変・改革の本来持っている能力を制限無しで使用出来るようになる。

*尚、この組み合わせで世界侵蝕をした場合の反動は凄まじく、劫の眼や無限の銃製<アンリミテッドガンズワークス>が世界侵蝕をした時間に比例して使用出来なくなる。

劫の眼（アイオンの眼）：未来視の眼。尚、真の能力を発現（使用する）させれば未来を掴み取ることも出来る眼でもある。尚、主人公は未来視の眼であることは知っているが、真の能力のことは知らないため、真の能力を発現（使用する）ことは無いと思われる。

特殊抗体：神により与えられた主人公のみが持つ抗体であり、<奴ら>化しない抗体や、訓練された者でも即死するほど強力な毒などに対する抵抗力も持つ。また、この抗体の最大の抵抗力は世界を滅ぼす程の強力な毒素にも抵抗出来る程、強力である。

主人公設定（随時追加予定・最終更新日10/3）（後書き）

ちなみに、主人公はFateでいうところの、直感と戦闘続行と気配察知のスキルも持っているのですがやはり書いた方が良いでしょうか？

アンケートの結果は

1：一票

2：一票

3：一票

になりました、紅茶様からのアンケートはこちらでは3と判断しております。また、紅茶様からいただいたアンケートの回答結果が一番作者的にはバランスが良いと思うので、紅茶様の意見で次話を書きたいとおもいます。

サブタイ通り随時追加予定なので作者の判断で追加していきますが、
分からない武器や用語が有ったら気軽に言ってください。追加します
ので。

何でだろう、話を書くのは1日以上掛かるのに解説とかなら一時間
もかからないなんて……

*9/21、弾丸・弾薬一覧を追加。*9/21、弾丸・弾薬一覧
に追加有り。*10/11、銃火器等一覧を銃火器・飛び道具一覧
に変更。*10/11、銃火器・飛び道具一覧に追加有り。

武器・装備・用語解説等一覧（随時追加予定・最終更新日10/11）

・刃物、刀等一覧

小烏丸天国：桓武天皇の時代、八尺余りある大鴉によってもたらされた宝刀。刀身が両刃、黒みを帯びているのが特徴。妖力を蓄積することができ、これを開放することで絶大な威力を放つ。11eyesにおいては、草壁 美鈴が愛用する刀である。嘗ては平家一族の家宝であった。

火車切広光：火車を切ったといわれる上杉謙信の愛刀。三尺を越える大太刀。呪を唱えることで、刃に炎を帯びさせ、奥義・火天墜衝を放つ。11eyesではグラ（黒騎士の一人）に一閃を入れるが、物語中盤の草壁 操戦において草壁 操（黒騎士の一人、黒騎士時はスperlビア）の『忌剣・友切』により根元から折られてしまった。

雷切：立花道雪が雷を斬ったと伝えられる日本刀。電撃を放つ刀として、遠近両用に使える。また電撃を広範囲に拡散、放電させることによって複数の敵を殲滅、敵の攻撃を防御することも可能な事から汎用性の高さがうかがえる。11eyesでは物語の後半より駆がたびたび使用することになる。

鉋切長光：近江の堅田又五郎が、大工に化けた妖怪を鉋ごと斬ったことから名付けられた刀。草壁五宝の中では最も刀身が硬い。刀の長さが変形可能で、柄には暗器が隠されている特殊な刀。陰の一閃。11eyesの中盤にて火車切広光と同じく、草壁操（黒騎士の一人、黒騎士時はスペルビア）に粉々に破壊される。尚、この時に使用した技は『忌剣・蟲喰み』である。

真打・童子切安綱：大原安綱の大傑作で天下五剣の一つ。使い手の血肉を糧にして力を発揮する草壁五宝最強の妖刀。使い手の血肉を糧にして力（妖力）を発揮する。捧げる血肉の量に比例して発揮する力は増大するが、”その状態”が長時間続いてしまうと刀そのものに神経、肉体を侵食され、取り込まれてしまう。奥義は鬼牙絶刀きがぜつとうで、11eyesではアケディア（黒騎士の一人）の頭部を両断した。

真打・童子切安綱を主人公が使った場合：主人公は真祖の吸血鬼の回復力、ヴァンプのナノマシン、特殊抗体を持つために真打・童子切安綱に血肉を捧げ続けても、刀に取り込まれる事はない。その上この刀に血肉を捧げる事は事実上、自身と刀を同化させることなので、改革・変革による性質等の変化が唯一元から存在しているものに行える武器である。

鬼切：貪狼の太刀。＊作者が詳しい情報を知らない為、情報募集中

です。

蜘蛛切：破軍の太刀。＊作者が詳しい情報を知らない為、情報募集中です。

コンバットナイフ：別名、大型戦闘用ナイフ、ファイティングナイフ、戦闘ナイフとも言われる。高硬度鋼材を用いて作られており、非常にロバスト（強靱）でありながらも鋭い切れ味を両立している。基本的な長さは12cm 25cmである。尚、この小説で登場するのはMGSで、ヴァンプが愛用していた大型戦闘用ナイフである。

高周波ブレード：刀身に高周波を流す（まとわせる）事によって切れ味・威力を上げた、ハイテク日本刀である。MGSでは雷電がMGS2アーセナルギアからの脱出の際からMGS4のアウターヘイブン戦まで愛用している。尚、MGS2の高周波ブレードは高周波によって得られた超振動などで切れ味・威力を向上させるタイプであり、MGS4の高周波ブレードは高周波によって得られた熱などによって切れ味・威力を向上させるタイプである。

・銃火器・飛び道具一覧

ベレッタM92：ベレッタM92は、イタリアのピエトロ・ベレッタ社が生産・販売している、9mm口径の半自動拳銃である。

ベレッタM92は、世界中の警察や軍隊で幅広く使われており、現在にはコルト・ガバメントに代わりアメリカ軍の制式拳銃になっている。尚、米軍ではM9のモデル名で呼ばれている。

正式名称はピエトロ・ベレッタM92。より詳細には、M92S・M92SB・M92SB-F（M92F）・M92FSなど複数のモデルが存在する。

米軍のM9は採用当初はM92SB-Fであったが、今はM92FSに切り替わっている。また、現在最も一般的なモデルはM92FSで、後述のように外見上の違いがほとんどないことから、これがM92Fと呼ばれることも多い。

ワルサーP38の流れを汲むプロツプアップ式ショートリコイル機構を持ち、ダブルカラムマガジン複列弾倉に15発の9mmルガー（パラベラム）弾を装填できる。

同社の拳銃の特徴である遊底スライドの上面を大きく切り取ったデザインは、イタリアの銃器デザインのひとつの到達点とも呼ばれ、見た目の美しさから映画やTVドラマなどでも主人公などの使う拳銃として、

よく登場する。そのためか、銃の規制が厳しい日本でも有名なハンドガンである。

また、使用弾薬が9mmパラベラム弾のため比較的反動が小さく、利き手を問わないセフティや左右取り換え可能なマガジンキャッチなど、開発当時としては格段に扱いやすい銃であった。

ベレッタM92F（ベレッタM92FS）：M92SBのトリガーガード前方に指掛けを追加し、マガジン底を分厚くしたのが、M92SB-F、すなわちM92Fである。M9として米軍制式拳銃として採用される。

P90（プロジェクト90）：正式名称はFN P90（ファブリックナショナル プロジェクト ナインティー）で、ベルギーのFN社が開発したPDWである。また、設計は人間工学に基づいた形で行われている。

P90（プロジェクト90）は通常のサブマシンガンとは違い、既存の拳銃弾を使用せず、小型化されたライフル弾のような形状の専用弾薬を使用する新しい形態の火器として1980年代末に開発され、「PDW（Personal Defence Weapon：個人防衛火器）」という分類で発表された。

機械化部隊や後方部隊など、装備や任務の面から自動小銃などを標準装備しない、あるいは装備し辛い環境にある兵士が、後方浸透してきた敵の破壊活動などにも対処できる軽便で強力な自衛用火器とされていたが、冷戦終結後に対テロ戦争が増加し、近距離での戦闘に適した火器の需要が高まった事、PDWという概念が浸透していないため、サブマシンガン的一种として分類される場合もある。*
実際、当小説ではサブマシンガンとして分類。

機関部がグリップと引き金より後方に位置するブルパップ方式を採用しており、全長に比べて銃身が長く、集弾性に貢献している。半透明プラスチック製弾倉を銃身の上に平行に装着し、弾薬は銃身と直交した状態で保持されて、装填直前の弾倉内で90度回転し前方を向く。サブマシンガンとしては多い50発の装弾数を実現したが、従来の火器とは大きく異なる装填方式であり、迅速な弾倉交換には熟練を要するとされている。

左右持ち替えを考慮し、チャージハンドル、セレクトレバーはどちらからでも操作できるようになっている。また、排莢も本体下部にある排莢孔から下に向けて行うため、射手の利き手を選ばない。
エジェクション・ポート

M4カービン：M4カービンとは、コルト社が開発製造したアサルトカービンである。

M4カービンは5.56mm NATO弾を使用するM16A2アサルトライフルの全長を短縮し軽量化したM16A2カービンの派

生型で、M16A2とは約80%の部品互換性を持つ。また、M4はM16A2同様のセミオートと3発バーストの発射機能を持つが、M4A1はバーストに代えてフルオートモードを備えている。そのため、M4A1は連続したフルオート射撃による加熱に耐えるために肉厚の銃身を採用している。

また、他のアサルトカービンと同様にM4はコンパクトで、通常の長さの歩兵用アサルトライフルと比べてより取り回しがし易いため、戦闘車両の乗員や将校らが使用することが多く、またその可搬性のよさから身動きの取りづらい都市部における近接戦闘や特殊部隊、空挺部隊による特殊任務にも幅広く使用されている。1998年にはアメリカ陸軍でM16A2の後継に選定されており、現在ではアメリカ陸軍の兵士の大半がM4を装備している。

M4は数社が類似モデルを製造しているが、コルト社は米国政府と2009年までの製造に関する独占契約を締結している。また、軍に残存しているM3サブマシンガン（これは主に戦車乗員の自衛用に装備されている）もM4に置き換えられる予定だという話もある。

M4は初期のM16の小型版であり1960年代のベトナム戦争時に開発、使用されたXM177との類似点も多いが、XM177等で使用されたM193/6弾に変わってM16A2と共通のSS109を使用するために銃身のライフルピッチが異なる。

M4A1:M4A1(M16A3カービン モデルNo.927)

は、M4の改良型カービンである。M4A1は特殊部隊用にM4の3バースト機構をフルオート機構に変更した物であり、キャリングハンドルは着脱式となる。

ドラグノフ狙撃銃：ドラグノフ狙撃銃は、ソビエト連邦が開発したセミオート狙撃銃で、英字表記である S n a y p e r s k a y a V i n t o v k a D r a g u n o v a の頭文字を取ってSVDとも呼ばれる。

ドラグノフ狙撃銃は、西側のセミオート狙撃銃と比較して細身で、軽量化や運搬性向上のため銃床は大きく肉抜きされている。また、長期的な酷使を前提としてAK-47を参考に作られたため、部品数は少なく、頑丈で信頼性が高い。しかし、AK-47とはガスチューブの形状などが異なり、部品に互換性はない。

弾丸は、モシン・ナガンM1891/30やカラシニコフ汎用機関銃と共通の7.62mm×54R（Rは「R i m m e d」^{リムド}もしくは「R u s s i a n（ロシアン/ロシアン）」の略）を使用するほか、精密射撃には狙撃用の7N1や後継の7N14も使用できる。ガスシステムは腐食を防ぐためにクロムでメッキ処理されている。

RPG-7：RPG-7は、ソ連の開発した携帯対戦車兵器。安価、簡便、強力であるため途上国や武装組織が好んで使用し、紛争では必ずと言って良いほど目にする。

RPG-7の名称は、ロシア語で「携帯式対戦車擲弾発射筒」を意味する「РПГ-7: Ручной Противотанковый Гранатомёт」（ルチノイ・プラチヴァターンカヴィイ・グラナトミョート）」の英字綴りである「Ruchnoy Protivotankoviy Granatomet」の頭文字をとった略称から作られた。

英語の訳表記では「Rocket-Propelled Grenade（ロケット推進擲弾）」と綴られ、必ずしも間違いとは言えないが、このRPG-7は、弾体である対戦車擲弾を「装薬によつて砲身から射出すると共に後方にも装薬の燃焼で発生したガスを噴射することによつて反動を相殺し、発射後に弾体の固体ロケットに点火して飛翔させる」という機構であり、厳密には「グレネードランチャー」もしくは「（携行）ロケットランチャー」ではなく、「無反動砲」の二次推進方式に分類される兵器であるといえる。

RPG-7は、構造単純、取扱簡便、低製造単価、M72 LAWやAT4などの使い捨ての物を除けば対戦車兵器では比較的軽量な部類の物である（それでも発射器と弾頭で10kgと、やはり重いものである）。しかし、そのわりに高い威力を発揮するため、アサルトライフル・AK-47と同じく発展途上国の軍隊やゲリラなどにより幅広く使用されている。

少なくとも40カ国が正規に採用しており、様々なモデルが9カ国以上で生産されている。特にこの兵器によつてゲリラやテロリスト

が容易に戦車をも破壊しうる火力を持つ様になった事が、いわゆる低強度紛争（LIC）の活性化の要因の一つとなっている。イスラエルのメルカバ Mk.4 やイギリスのチャレンジャー2など、対成形炸薬弾防御に特化した戦車以外が RPG-7 の成形炸薬弾を側面から受けると行動不能になる程の威力がある。

ただし、発射時の後方噴射が激しく、射手の位置が判明しやすいため、別名「スーサイドウェポン（suicide weapon, 自殺兵器）」と呼ばれる（大抵の歩兵が携行する対戦車兵器は発射時にはば位置を暴露してしまう）。これにより射手は反撃を避けるため発射後速やかに移動することが必要である。

また、日本においては、九州南西海域工作船事件において北朝鮮工作船乗組員がこれを使用したため有名になったとされている。また、防衛省でも少数を研究用に購入し、自衛隊の装備品に対する各種試験に使用している。

*ロシア語は翻訳サイトを使ったので間違いがあるかもしれませんが。

ステインガーミサイル：正式名称、FIM-92 ステインガーは、米国が1970年代に開発に着手し1981年に採用された携行式地对空ミサイルである。ちなみに、「ステインガー」とは英語で「毒針」の意味。

FIM-92 ステインガーはFIM-43 レッドアイ携行地对空ミサイルの後継として1972年に開発が始まったもので、開発においては、どのような状況下でも使用できる全面性と、整備性の向上、敵味方識別装置（IFF）の搭載に主眼が置かれた。

主とする目標は低空を比較的低速で飛行するヘリコプター、対地攻撃機、COIN機などであるが、低空飛行中の輸送機や巡航ミサイルなどにも対応できるよう設計されている。このため、誘導方式には高性能な赤外線・紫外線シーカーが採用され、これによって撃ちっ放し能力（発射後の操作が不要な能力）を得ている。

バレットM82：バレット M82（英字表記、Barrett M82）は、バレット・ファイアーアームズが開発した大型セミオート式狙撃銃である。使用弾薬はヘリコプターや装甲車などにも損傷を与えられるようブローニングM2重機関銃等で使われている12.7mm×99弾を使用する。

過去に対戦車用として同口径の弾薬を使用するライフルが存在したため対戦車ライフルと表現されることもあるが、現在配備されているような戦車の装甲を貫くことはできず、陣地、軽車両を標的とした対物ライフルに分類される。しかし、対テロ用や超長距離狙撃用として対人射撃に使用されることがある。

開発経緯は、軍事使用目的で開発されたため、兵士が一人で運用できる重量や操作性と火力の両立を目指している。また、焼夷弾や徹

甲弾などの各種弾頭の使用が可能で、焼夷弾と徹甲弾、炸裂弾の効果併せ持つ Raufoss Mk 211 も使用される。

銃口には、マズルブレーキがついており、軽量化のため、反動利用式の作動機構としてターン・ボルト・ロッキング・ボルトと、ショート・リコイルする銃身を組み込んでいる。射撃は伏せて行う（伏射、プローン）か、土囊などで支えるのが一般的とされる。

セミオート式のため、連続射撃が可能だが、マズルブレーキから噴出する発砲煙と、それに巻き上げられる砂埃が射手を覆うほど拡散する。また、携行性を向上させるためか、15秒程で組み立てが行えるように設計されており、分解してケースに収めることで簡単に運搬が可能である。

機関右側面の排莢口ボルト・ハンドルを後方に引くことで薬室への弾薬装填を行う。原型の M82 は、1982 年に開発され、1986 年には改良型の M82A1 が開発された。1987 年にはブルパップ型の先行試作モデルで、携行 SAM のように肩に担いで攻撃ヘリコプターの迎撃に使われる M82A2 が開発されたが、これは後に生産中止となった。M82A1 をさらに改良した、M82A3 も存在する。

大規模な販売実績は、1988 年のスウェーデン向けが最初となる。その後、1990 年～1991 年の湾岸危機、湾岸戦争の際に、アメリカ軍が M82A1M（M82A3 - SASR アメリカ海兵隊）、（XM107/M107 アメリカ陸軍）を制式採用した。

現在の採用国は、ベルギー、デンマーク、フランス、フィンランド、ギリシャなど30ヶ国以上にのぼる。軍隊、特に特殊部隊での使用のほか、飛行機の操縦室に立て籠もる犯人を強度のある風防ガラス越しに正確に狙撃して無力化する目的で、一部の警察SWATがハイジャック犯狙撃用として採用している。過去に海上保安庁へ数丁の納入実績があるが、正式配備は不明である。

また、威力については、イラク戦争でアメリカ軍が掃討で使用した際には、1.5km先にいた敵兵の身体を両断したとされる。強力かつ長射程なため、大きな射撃場でないと発射試験などはできない。

初期にはマズルブレーキの能力不足で強い反動を伴っていたが、箱型のマズルブレーキに改めた結果、12番径のショットガンと同程度まで反動が軽減された。また、バレット社は二脚を立てての片手撃ちや、腰だめに抱えて連射するPR映像を公開している他、YouTubeなどの動画共有サイトには、普通のライフルのように構え、砂漠に向かって連射する米海兵隊員を撮影した動画等がアップロードされている。

アメリカでは民間人でもスポーツシューティング用として購入、所持する事が出来るが、アメリカ同時多発テロ事件以降のテロ対策の観点から、規制すべきとされている。しかし、これに対しバレット社は「犯行に使用される銃はほとんどが隠し持つのに適した拳銃などのコンパクトな物で、M82は大きさ、重量からして犯罪に適さないし、犯罪に使用された前例も皆無である」と反論している。事

実この銃は分解状態でも大きくかさばり、ライフル本体だけでなく弾丸も比較的高価な上、一部の専門店でしか取り扱っていない上に、発射音や発射時に巻き上がる煙などから、隠れて撃つには不向きである。

・弾丸・弾薬一覧

・45ACP弾：　・45口径弾ともいわれる。　・45ACP弾は、初速が亜音速のためサプレッサー（サイレンサー）との相性がよく、9mmパラベラム弾などの超音速初速弾よりも射撃音が小さくなる事が特徴である。打撃力に関しては、9mmパラベラム弾より初速が遅いが運動エネルギーを大口径とより重い弾頭重量で補っているため、9mmパラベラム弾と比べても全く遜色が無い。

また、9mmパラベラム弾と比べてストップピングパワーが高いとよく言われるが、実際は殆ど差がないことが判明している。一部ゲーム内では・45ACP弾と9mmパラベラム弾では威力に大きな差があるものも存在する。

また、アメリカ軍は現在でもH&K MARK 23拳銃やH&K UMPなどの・45ACP弾を使用する銃器を

特殊部隊（グリーンベレー等）用に調達し続けているが、これは上記のサプレッサーとの相性のほかにも、米西戦争で直面した・38ロングコルト弾の威力不足問題からアメリカで根付いた小口径弾薬の打撃力に対する不信感も一因といわれている。

製作（製造）初期から・45ACP弾を使用するように設計されている銃

コルト・ガバメント	U・S・M1917	（コルト）	U・
S・M1917	（スミス&amp;amp;amp;ウエッソン）		H&amp;amp;amp; ;
K MARK 23	FP45	“リベレーター”	H&amp;amp; ;
K HK45			

9mmパラベラム弾モデルからの・45ACP弾の派生型	
H&amp;amp; K USP	S&amp; W M645
グロ	
ツク21/38/30/36	SIG SAUER P220
SIG SAUER P250	スプリングフィールドXD

・オリジナル武器

現在なし

・ 装備等一覧

現在なし

・ 用語解説等

現在なし

武器・装備・用語解説等一覧（随時追加予定・最終更新日10/11）（後書き

とりあえず、ここに今載せているのは今後出す予定のものと、作者の趣味で集めた知識の置き場？です。

次話は約6000字にいくように頑張って書きます。次話投稿予定は9/22か9/23です。

オリ武器募集中。ただし、晃くんの能力で作れそうなもののみ。

第3話：転生後、初日（前書き）

やはり、約6000いくのには無理がありました…。今回で約3000字です。まあ、原作開始後からは「side」の話もやるので自然と文字数は増えるでしょうが一人称だけだと、どうも量が……

あと、アンケートは3を採用したのですが作者の技量や、こんな小説を読んでくれている皆さんを待たせないためにも（言い訳ですね。現に更新遅れましたし）2の形で現在進行しています。

ちなみに、気づいているかたも多いと思いますが基本的にうちの神様は優しいです。

総合PV21000突破、総合ユニークアクセス6000突破。こんな亀で不定期な更新の小説をよんでくださる皆さんに感謝……！！

第3話：転生後、初日

「念話を切った直後」

あゝあ、神のやつ行っちゃった？な。

てか、よく二次創作の小説とかで見るが記憶とかの継承ってかなりの激痛が走るみたいだが、大丈夫なのか？……ヤバッ、ちよつとどころかなり心配だ……（汗）

なんだ！なんかが、頭ん中や体ん中に入ってきたぞ。これが記憶の継承（引き継ぎ）や能力の付加なのか？まあ、痛みはないから心配していた点については安心だが、正常に記憶と能力は入ってきてるのか？

……考えても仕方ない。とりあえず今はこの状態が早く終わる事を祈ろう。

「15分後」

やっと終わったか。えらく長かったが何でだ？もしや、頭痛が起きたりするのってこんな風に時間を掛けずに一気に流し込むからか？

そうだとしたら、そういった類の頭痛はただの頭痛ではなく脳の空き容量が一気に埋められるから情報処理が追いつかないまま詰め込まれる為に、脳が悲鳴をあげているのか。だとしたら怖いな…

継承された記憶によると、親父は出張中らしいな。母さんはいつも6時頃には起きてるらしいな。

てか、今何時だ？時計、時計…と、あつたあつた。なににな？

「04時56分だと……」

「……よしっ、二度寝しよう」

く一気に飛んで昼食後く

え？なんでいきなり昼食後かって？それは特に（作者が）書く出来事がなかったから仕方ないだろうが！

あえて言うなら、教師の母親と出張ばかりの父親なのに飯をどこで食べていたかだな。オレも原作を読んだときに親の仕事が仕事なだけに、小さい頃、飯をどうしてたか気になってたんだが。まさか、『宮本家』でお世話になるとは思いもしなかったぜ。

継承された記憶とか、母さんに今日のお昼は宮本さんの所で食べてねって言われたときは、まさか！と思ったけどそのまさかで、『宮本家』は原作ヒロインの『宮本 麗』のいる一家だったよ。

いや、どういった経緯で孝と麗が知り合ったとは気になっていたが、まさか母親同士が知り合いで幼少時代にお世話になっていたなんて気づきもなかったよ。

～午後～

確か原作によると、孝達（主人公含む）は幼稚園に通ってるんじゃないかってっけ？

っと思ったら。どうやら、今日は日曜日のように幼稚園は休みらしい。母さんも学校に少し用事があったから、昼間過ぎまで居なかっただけで休みらしい。

ちなみに今どこにいるのかと言うと、公園に来ております。

何故公園に来たのかは分からんが母さん曰わく。

「さあ、晃ちゃん。孝ちゃん。今日はいっぱい遊びましょうね。」

ということらしい。多分、親の仕事柄上、遊べる日や自由な日は家族と一緒に過ごす。ということなのだろう。

だが、どうしたらいいんだよ！オレ転生前は高校生よ！4歳児の遊びって何しろっていうんだよ……。こうなったら無駄にリアルな城でも作ってやるー！

〜二時間後〜

ふはははは、オレはやり遂げたぞー！！！！

「ねえ、おにいちゃん。なにこのおつきなっおしろ？」

「孝、これはランドグリーズ城っていう昔のお城なんだよ」

そう、オレこと小室 晃は、某特殊な鋼石で作られた武器等を持つと覚醒して異常に強くなる人種がいるゲームに出て来ている城をつくったのだ！！！！

「まあ、晃ちゃん凄いいじゃない。この大きなお城、晃ちゃん一人でつくったの？」

「うん、そっだよお母さん」

ちなみに、何故オレが母さんではなくおを付けてお母さんと呼んでいるのは4歳で母さんはおかしいとおもったからだ。

「ほんと、晃ちゃんは何でも凄いのね。言葉を覚えるのとはやかつたし、歩くのもはやかつたしね。」

確かに、継承された記憶によるとオレすげえ、としか言いようがねえな。神、あんた飯の魂だからって少しは自重しようぜ……

～夕食後～

ふう、やっと1日が終わるのか。小さい体って思ってたより体力の消耗が激しいな。近所にいた小学1年ぐらいのやつのが体力がしれんぜ……

「（おい、聞こえるかの？）」

ん？この声は神か。なんだ？何かそっちで問題でもあったのか？

「（ワシにとっての問題はない。じゃが、お主にとっては問題有りじゃな。）」

何かそっちの手違いでもあったのか？

「（まあ、確かにこちらの手違いじゃな。）」

もしかして、オレに授けた能力のことか？

「（そうでもあると言えるし、そうでもないとも言える。）」

能力であって、能力でないと……、もしや、武器か？

「（半分正解じゃ。お主の言う通り武器の草壁七剣を渡すのを忘れておったのじゃよ。）」

やはり、武器か。だが半分正解ってどういうことだ。残り半分はなんなんだ？

「（それは身体能力や、経験、技術などじゃよ。こちらの手違いで能力と記憶の継承は出来ておるのじゃが、身体能力や武器などがお主に渡っておらんかったんじゃよ。）」

そういうことか。なら、連絡してきたってことは今からやるのか？

「（一部を除いて、じゃな。）」

一部を除くだ？どういうことだ。

「（武器は今からお主の目の前にでも送ったらいいだけなんじゃが、身体能力や経験、技術は、ちと、お主が起きておる状態でやるのは無理なんじゃよ。）」

何故オレが起きている状態だと無理なんだ？

「（うむ、それはの。お主の体自体にそういったものは継承するわけじゃから、お主という自我がはつきりとしている状態。つまり、起きている状態では、お主という自我が無意識下に邪魔をして上手く付加できんのじゃよ。）」

そういうことか。なら、オレが寝ている間に身体能力、経験、技術の継承はしといてくれ。武器はオレが起きたときにでも送ってこないか。

「（わかった、身体能力などは寝ている間にやっておく。もとよりそのつもりじゃったしな。武器はお主が起きた時に念話で話かけるからそのときにでも渡そう。）」

ああ、神ありがとな親切にしてくれて。

「（なに、お主のこれから送ることになる人生の原因を作ったのはワシじゃ。お主が望んでいた世界とはいえ、その位の面倒は見る。）」

「
そうか、本当にありがとな。なんか、オレとお前の種族が同じで、転生するまえに会ってたら親友に成れただろうな。」

「（いや、種族が違えど親友には成れるかもしれんぞ。ワシはお主のことは親友とまでは行かんが、友とは思っておるしの。）」

はは、神。あんた、優しいのもほどにしとけよ。まあ、そこまで言ってくれるならオレも友と思っておこう。

じゃあ、オレがこれから送ることになる人生を楽しみにしてくれよ！

第3話：転生後、初日（後書き）

今回は小学校と能力確認のお話の予定です。

追加してほしいことや、解説してほしいこと、修正点や感想などお待ちしております

読者の皆様方に感謝。

第4話：翌朝、そして小学校。予期せぬ転校生（前書き）

活動報告にあるように体調崩し、昨日復活しました。

やはり作者の技量的に、能力確認と小学校編？は同じ話に載せられませんでした。技量不足でめちゃくちゃになるので。

しかも、今回の話はついやっていました。だが、後悔も反省もしない！

お気に入り登録100件突破ありがとうございます！！！！！！
登録していただいている皆さんに感謝を！！！！

第4話：翌朝、そして小学校。予期せぬ転校生

（翌朝）

……ん……ん、外が明るいな。

「朝か？」

まあ、オレは起きたんだ。神から連絡がくるまでゆっくりしようじゃないか。しかし、本当に能力や身体能力、経験とかは継承されたのか？

「（起きたようじゃの。）」

お、神か連絡まっただぜ。ちゃんと例の件は出来ているのか？

「（例の件って……、そんな言い方じゃとまるで、何か悪事を働いているみたいでわないか。）」

いいじゃねえか。いちいち全部言う（書く）のが（主に作者が）面倒くさいからだよ。

「（まあ、よしとするかの。例の件じゃがちゃんと出来ておるわい。今、お主が何も分からんのはワシが一時的に封印してあるからじゃよ。お主の言った内の三人から継承したモノの中には危険なモノはなかったが、残りの一人。草壁 操から継承したモノの中に幾つかじゃが危険なモノが有ったんでな。ワシが対応出来るように、一時

的に封印したんじゃないよ。」

そう言うと、オレの内側から幾つかの感覚などが込み上げてくる。その中の草壁 操の陰陽術の中に何個かヤバイもんが有ったから今まで一時封印してたんだろっ。

たしかに、こりゃ術式が暴走でもしたらヤバいな。

「（どうじゃ、例の件に関係するモノが確認出来たかの？）」

ああ、たしかに例の件のモノは確認出来た。あんたが危険なモノって言ってたやつも確認出来たが、暴走でもしたらヤバイもんがたしかに有るな。封印していた理由が納得出来たぜ。

「（それならよい。では、いまから草壁七剣を送るとするかの？）」

そう神が言うと、オレの目の前に、小烏丸天国、火車切広光、雷切、鉋切長光、真打・童子切安綱、蜘蛛切、鬼切が現れた。

「（どうじゃちゃんとそちらに届いておるかの？）」

ああ、バッチリ届いているぜ。

そうオレは言うと早速、草壁 操から継承されたモノの中から一つの術を見つけ出した。そう、この術は草壁七剣の出てくる原作で剣（刀）の収納に使われているアノ術だ。

オレはその術を用いて早速、草壁七剣を収納することにする。草壁五宝は原作のように指の爪に、蜘蛛切と鬼切は両腕に収納した。

「（うむ、上手く収納も出来たようじゃな。最後に一つお主に言うことが有つてな。）」

なんだ、オレの望んだモノの中に何か変更したモノでも有つたのか？

「（お主、最後にく奴ら>化しない独自の抗体を望んだじゃろ。あれをランクアップさせてな、<奴ら>化しない抗体は勿論、訓練された者でも限りなく0に近い量でも飲んでしまえば即死するほど強力な毒に対する抗体もつけておいたぞ。）」

なにその抗体凄すぎ……………

「（まあ、良いじゃろ。どれ程強力な回復力を持っていたてもそれを上回る速度の細胞破壊の起こる毒でも喰らって死んでしまったらお主も嫌じゃろうて。）」

確かに、死因が神からもらった回復力を超える毒つてのはやだな。

でも、そんな強力な毒なんてあるのか？

「（めつたに起こることではないのじゃが。稀に死界から毒素のようなモノが様々な世界に飛ぶことがあつてな。それに抵抗することの出来るほどの抗体をもたせたのじゃよ。ちなちに、その毒素で滅びた世界があるほどの強力な毒素じゃ）」

死界つてのはよく分からんが、とにかくその毒素がヤベエもんつてのは分かった。

親切にサンキューな。

「（まあ、本当に保険じゃがの。では、そろそろ念話を切るとするか。）」

ああ、最後にあんたの名前を覚えてくれないか？

友と思ってくれるなら友としての礼儀つてもんがあるしな。

「（いいじやろ。ワシの名前はお主達、いや、晃達の言葉に直すと『アルフェスト』じゃ。）」

そうか、分かったぜ。じゃあなアルフェスト！！

「（ああ、晃よ。ではな。）」

――時は一気に飛んで小学校――

（入学式）

はい、オレこと小室 晃は現在小学校の入学式に出ています。

いや、長かったよここまで。だってさあ、幼稚園とか退屈を通り

越して恥ずかしいよ……、思い出したくもない。

まあ、幼稚園で唯一良かった事はあの高城 沙耶のツンのないノンビリした性格が見れただけでも大きな収穫だろ。

小学生に成ったから少しは周りの子供や大人の態度もマシになるだろう。

「~~~~~」
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

なにか、校長が言っているが聞く耳もたねえよ。はあ、まだ続くのか入学式は。精神年齢二十代後半のヤツには正直いらん事だな入学式……

〜一年〜

はいはい、こちらリポーターの小室 晃です。

只今、算数の時間で時計の見方を習っております。正直退屈です。というか小学校一年はなにしていたか忘れてたが。まさか、時計の見方とは……

\*ちなみに、国語の時間はひらがなカタカナ等ですw

〈二年・三年〉

二年は九九を、三年はわり算を習いました。

まあ、知ってるけどね

え、何なに。オレは何をしてかって。九九？なにそれ舐めてんのつてノリで、オレはそんな生っちょろいもんじゃくて1000×1000まで言っただけ。

\*教師は私より頭が良いと泣いてました

〈四年・五年〉

四年、予期せぬ事態が発生しました…

実は、この学年の終わり頃に転校生が来たんだが、なんとその転校生は、某『神にも魔王にも凡人にもなれる男』のゲームのメインヒロインの中の一人『時雨 亜沙』さんなのですよ。麻。タイム風

とりあえず一言、亜沙先輩GJ!!!!!!

\*後でアルフェストから連絡が有り。ワシからのサプライズだと言われて晃くんは舞い上がってました。

五年、なんと知らない間に亜沙ちゃんにフラグが立ちました。

多分理由は、オレが料理を出来ると調理実習の時に知り、二人で色々話を咲かせ、度々『時雨家』に遊びに行っていたためだと思われる。

く六年・そして卒業式く

六年、やはり亜沙ちゃんに立ったフラグは本物だったようだ。

時々、軽いデートのようなものもしちゃったぜ。

\*近所の人達からは微笑ましいと言わんばかりの視線が送られていました。

卒業式。実を言うとオレってば、ほとんどの小学校の先生達と仲が良いのだよ。しかも、担任は余計に。

だから主に、今までにオレのいるクラスの担任になった先生には泣かれたよ。

ちなみに、亜沙ちゃんは

「とうとうボク達も中学生だね」晃くん、その先の高校は一緒に行くこっね」

と元気に言っていました。

だが、すまない。『オレは一緒に高校にはいけないんだ』と心の内

で深く謝っていた。

〳卒業後のある日〵

オレはとある近所の公園に亜沙ちゃんを呼んだ。理由は、オレが共に高校に行けない事を話すためだ。

「晃くん、僕に話ってなに？」

「実はな、オレは一緒に高校…いや、中学すらも一緒に行けないんだ。それを話すために今日は呼んだんだ。黙って聞いてくれないか。」

そして、オレは話し出す。オレが共に行けない理由を。

「……………という事なんだ。」

「…ねえ……それって、もう…親に許可……貰って…るの？」

「ああ、許可はもう貰っている。本当は最初にお前に話すべきだったんだろうが、親に許可が貰えるかが微妙でな、話すのが遅くなってしまうてすまない。」

そう言つと亜沙ちゃんは俯いてしまった、まあ仕方ないだろう。なにせ５年以上は会えないのだからな。

オレが考えている間にいつの間にか亜沙ちゃんは顔を上げていた。

「……その…五年以上も会えないのは嫌……、嫌だけど、晃くんが絶対また戻つて来てくれるって言つのは信じてあげるから待つてあげる。」

「本当に良いのか？五年以上も会えないんだぞ。」

「五年以上も会えないのは寂しいしつらいけどね…、晃くんのこと信じてるから待つててあげるよ。」

どうやら、本当に良いらしい。最後の言葉にも覇気が戻っていたみたいだし。

「なら、必ず此処に戻ってくるさ。それまで浮気したら許さねーかな。」

「それはボクのセリフだよ晃くん。向こうで可愛い子がいたからって浮気したらだめだぞ。」

「そんなことしねーよ。今日はありがとな、こんな話を聞いてくれて。本当にありがとな。」

「ふっふっ、信じて待つのは良い女の証拠だよ、晃くん。」

「そうだな。」

オレは最後にこう言い、彼女を抱き締めた。

#### 第4話：翌朝、そして小学校。 予期せぬ転校生（後書き）

時雨 亜沙のボクってカタカナで合ってますよね？ゲームしたのが半年前なのでよく覚えていないもので……

読者の皆さんに感謝！！！！

出来れば感想くださいな。

## 第5話：能力とかの確認<前>（前書き）

話の流れ的に分けないと、読みにくくなりそうな所があったので前後編で分けました。↑言い訳&嘘 m（――）m

本当は親に見つからないように書くために無線でネットに繋いでるんですが、書いているときにとか保存中に電波が途切れて今日書いた分が消えたので、書いてる分だけ、もとい生き延びた分だけ先に投稿しようと思ったからでござる。

なので、量は薄いです。約2600字…

皆さんオススメの強力な無線LAN付きのルーターあったら教えてください。

## 第5話：能力とかの確認<前>

――能力確認編・前――

〃。月。日〃

今日は、無限の銃製<アンリミテッドガンズワークス>の能力の基礎確認を行うとする。

まずは、基本的な銃であるハンドガンやサブマシンガン、アサルトライフル。基本的かどうかは微妙だが、スナイパーライフルとそれぞれに対応した弾を出してみるとする。

ハンドガンは、あまり銃には縁がない日本でも有名なハンドガン、ベレッタM92シリーズの内一つを出すことにした。取り出したモデルはアメリカ軍でも正式に採用されているM92FSで、アメリカ軍内ではM9とも呼ばれているものである。

動作確認や、取り出した弾がきちんと装填出来るかを試して見たが  
どうやら問題は無いようだ。

次に、サブマシンガンを取り出すとする。サブマシンガンは日本では  
何が有名なのか分からなかったため、P90と言われる比較的  
新しいタイプのサブマシンガンを取り出してみた。

こちらも動作確認や、取り出した弾がきちんと装填出来るかを試し  
てみたが、どうやらこちらも問題は無いようだ。

アサルトライフルは、AKシリーズかM16シリーズが日本では有名  
だと思ったのだが、どちらを取り出すか悩んでしまい、最終的には  
M16シリーズの派生系であるM4シリーズの一つであるM  
4A1を取り出すことにした。

やはり動作確認や、弾がきちんと装填出来るかを試してみたが問題  
は無いようだ。

スナイパーライフルは銃の種類をあまり知らない人でも知っている  
と思われる、ソビエト連邦が開発したドラグノフ狙撃銃を取り出  
してみた。

ちなみに、このドラグノフ狙撃銃。日本では、猟銃（ライフル銃）  
としての取得が可能であり、所持許可の実績もあるため持っている  
人もいる。しかし、用途は狩猟目的に限定され、さらに弾倉の装填  
数を5発以内にする改造、ライフル銃取得に必要な資格（狩猟免許  
等）及び適当な経歴を要するため持っている人は少ないと思う。

話がそれたが、そういった理由でこの銃を出したのだ。四度目になるが、動作確認、弾の装填などを確認するが問題は無い。

威力・威力減衰等はすべてのタイプの銃で試したが、威力・貫通力・衝撃・減衰、すべて実際の銃・弾と変わりはないようだ。

恐らく、基本的な銃の種類であるタイプのものは急いで取り出しても、何か補正があるのか分からないが形に異常や動作不良などは無いようである。

次は、対物スナイパーライフルやロケットランチャーなど高威力かつ大型の兵器を取り出してみた。

ロケットランチャーは、現在でも対戦車兵器としてや、ヘリを落とすために度々使われるRPG-7を取り出した。

恐らく、日本でロケットランチャーと言えば？と質問したら大半はこの、RPG-7が一般的にステインガーと呼ばれる追尾機能のついたロケットランチャーの事を答えるだろう。

ロケットランチャーは基本的に単発式のものや使い捨てのものが大半を占めるため、使用後は廃棄、再度取り出しをする方が効率的だと思われるので装填は確認しなくても良いと思われる。そのため、動作確認や威力確認のみになるが、急いで取り出した物とイメージして取り出した物とで比べてみた。

結果は、普通に製造されている物の威力を1とすると、きちんとイメージして取り出した物は1であり。急いで取り出した物は0.4〜0.7のようである。

動作については問題は無いようだ。

対物スナイパーライフルは、ハンドガンと同じように日本でも有名だと思われるバレットM82シリーズの内のバレットM82A2を取り出した。

対物スナイパーライフルは、世界大戦時の対戦車ライフルのような戦車の装甲破壊までの威力はないが軽装甲車ぐらいなら軽く撃破できる程の威力を持った銃である。

また、世界大戦時のような単発式のものではなく、単発式のものがあったとしても取り回しを良くするために切り詰め過ぎが原因のものが多い。

それ故に、動作確認は勿論のこと、装填が出来るかなどと確認が必要と思われる。

威力の結果は、普通に製造されている物の威力を1とすると、きちんとイメージして取り出した物は1であり。こちらは急いで取り出した物は0.5〜0.8のようである。

動作・装填などの問題はないようだ。

恐らく、大型の兵器や大威力の兵器の場合は、取り出すときの修正が急いで取り出すと修正が追いつかないために威力の劣化が起こるようだ。

次は服なども取り出してみた。

服などはイメージしないと服の作りが粗かったり、時間と共に消えたりした。

銃の装備品などは消えたりはしないがイメージが薄いと強度や機能に問題が出るようだ。

どうやら服などの銃の属性を持たないものはちゃんとイメージをしないと時間と共に消えたり、劣化するようである。

これはこの、無限の銃製<アンリミテッドガンズワークス>の元になった無限の剣製<アンリミテッドブレイドワークス>の時から欠点なのであろう。

総合結果は、基本的な武器の運用は緊急時でも可能だが、破壊力のある時などはイメージをしっかりとしないといけないようだ。

〃。月。日〃

今日は、真祖の吸血鬼の回復力を試すことにする。

真祖の吸血鬼の回復力がどれほどのものを試すに当たって、無限の銃製くアンリミテッドガンズワークス>からC4爆弾を取り出し腕に付けてみた。

この実験、失敗すれば腕が無くなるがオレの知識だとたしか、吸血鬼などの回復は時間逆行によるものだった筈なので腕が吹き飛んでも時間がたてば戻るだろう。

さあ、ではやろうか。体の一部が吹き飛んだ時の痛さにも原作開始までには慣れておかないといけないからな。いくら凄い回復力をもっているても痛みで動けなかったら意味がないしな。

ちなみに、C4は時限式だ。

『5・4・3・2・1・0』

「ドッシーン――！」

「ぐあああああああ――！」

ヤバイ――！ヤバイ――！

洒落になんねえぞこれ……

痛みで意識が飛びそうだ……………

「クソ、血が止まらねえぞ。再生はまだか！」

仕方ない、まだ試していないがやるしかねえ

「来い！火車切広光」

オレは火車切広光を指の爪から取り出すと、朦朧とした意識の中で妖力を火車切広光に送り、炎を発生させた。オレはその炎を使って肉を焼き、すぐに止血した。

「まったく、前世で三百でスパルタな兵士の映画を見て良かったぜ……………」

そこでオレの意識は途切れた。

## 第5話：能力とかの確認＜前＞（後書き）

とりあえず、今日は寝ずに書くので早ければ明日の早朝には消えた分の内容を投稿します。

誤字・脱字報告。感想。指摘・指導。お待ちしております

こんなダメな作者の小説を読んで下さる読者の皆さんに感謝！！！！

## お知らせとアンケート（前書き）

能力確認の話だとかかなり期待していた方達には申し訳ない。

寝ないで書くとか言いながら寝落ちしてしまいました（；^| ^ A  
アセアセ…

なので先にアンケートとお知らせをと思い投稿です。

ところで皆さん、作者の活動報告見てくれますか？

出来れば週に一回は見えて欲しいです。投稿予定なども書いているので。

## お知らせとアンケート

〽お知らせ〽

実は作者、活動報告にもあるように10/5に二学期の中間テストの範囲の発表があり、テストがその来週の10/12と10/13の二日間あるんですよ。

なのでテスト終わるまでは、まともに投稿出来ないかもしれません。

しかもテストが終わった一週間後には修学旅行で、東京に二泊三日でいくので今月の終わり頃まではまともに投稿出来ないかもです。  
最悪の場合今月の終わり頃まで停止するかもしれませんのでご了承ください。

〽アンケート〽

いくつかのアンケートを取りたいのでアンケートの回答は感想に書くか、メッセージで送るかのどちらかをお願いします。＊特に思いつくものがないものは飛ばして結構です。

一つ目：晃くんの能力で作れそうな武器や装備などの何かアイデアが有ったらどうぞお願いします。

二つ目：ヒロインを亜沙さんだけで固定するかです。

固定なら2 - 1。固定しないなら2 - 2をお願いします。

尚、固定しない方の意見の場合は原作・別のアニメ・漫画・ゲーム（ギャルゲー・エロゲー可）などで出して欲しい・主人公と絡んで欲しいキャラが有った場合は

例：2 - 2。原作、ナツユメナギサ。キャラ、美浜 羊。この世界での設定、登場時期、

などのように書いて下さい。オリキャラでも可。ただし、作者の都合で最大で三人の予定。＊亜沙さん除く。

\*2-2を選んだ人が多い場合で出して欲しいキャラが書かれていなかった場合は作者と友人の趣味でキャラを出す予定です。

\*また、キャラが沢山寄せられた場合は最大三人までとなっているので、紙にキャラの名前を書き、くじ引きにて決定いたします。

\*オリキャラはあくまで学園黙示録の世界にいるような人にしてください。

\*作者が知らないキャラだった場合はキャラ崩壊が起こる可能性大なのでそこはご了承を…

三つ目：三つ目は主人公と原作組以外のキャラの中で死者を出すかです。やはり仲間の死は必要かもしれないので。

死者を出す場合は3-1。いや、そこは主人公らしく仲間を守り通すべきだ。死者なしの場合は3-2。お願いします。

あと、アンケートには直接関係ないですがオリジナル展開を多くする作品にするか？作者自身悩んでいるのでアドバイスなどありましたらよろしくお願いします。

## お知らせとアンケート（後書き）

アンケートの期間もとい締め切りはテストの終わる10/13の23:59までとさせていただきます。

沢山の回答等お待ちしております。

## トークショー形式でアンケート結果発表（前書き）

今回は初の予約掲載。

予約掲載の設定は10/17の00:00に設定

ちゃんと載ってるかな？少し心配です。

\*前書き修正点というか追加点

痛恨のミスをしました。予約掲載の設定を10/17の00:00に設定したつもりが、10/18の00:00になっていたようです。

しょうもないことで更新1日遅れましたorz

## トークショー形式でアンケート結果発表

作者「さあ、やって参りました。このコーナー。」

作者「まあ、このコーナーとか言いながら初めてなんですがね。」

作者「実況は私こと作者と。」

晃「オレこと小室 晃が行うぜ。」

「読者の皆様に感謝」

作者「いやはや。しかし、晃くんや。驚きましたね。」

晃「ああ、確かに驚いたな。」

作者「まさか。こんな、駄文で亀更新＆不定期な小説が、なんと。」

晃「総合PVが六万を突破、総合ユニークアクセスが一万四千を突破したんだからな。」

作者「読者の皆様、ありがとうございます……！」

晃「これからも、この小説をよろしく頼むぜ！……」

〈アンケート1の話題〉

作者「アンケートに回答していただいた方々、ありがとうございます。」

晃「オレの武器のアイデアを送ってくれてありがとな。」

晃「そういや、作者。結局どんなアイデアが来たんだ？実は、オレまだ見てないんだよ。」

作者「見てないのに、お前は武器のアイデアに関してお礼をしたのか。」

作者「ゲテモノ武器や変な武器がアルカモシレナイのにねww」

晃「え〜と、作者……。もしかして、そんな武器があつたのか？（汗）」

作者「いや、ゲテモノはない……！」

作者「変わりに、武器じゃ無いようなモノはあつたがな！」

晃「そっか、ゲテモノは流石にねえよな。でも、武器じゃ無いよう

なモノってなんだ？」

作者「まあ、今から頂いたアイデアを言うから、ちょっと待ってね。」

晃「了解した。ところで、なぜに葛城さん…？」

作者「では、頂いたアイデアを発表させて頂きます。」

晃「オレのツツコミ、スルーされた！」

作者「アイデアは、先着順で発表させてもらいますので、最初はH O H J様から頂いたアイデアを発表させてもらいます。」

作者「『カスタムロボの武器何かは、面白いと思います。』」

作者「『例：サークルソード、ドラゴンガン等』」

晃「おお、カスタムロボか。懐かしいぜ。オレは、バトルレボリ ユーションまでやったけど、作者は何までやったんだ？」

作者「同じくバトルレボリユーションだ。」

作者「そういや、このアイデアをもらった時は、つい久しぶりにカスタムロボやりたくなってゲームの置いてる奥底から掘り出して一時間だけプレイしてたな。」

晃「話を戻すが、カスタムロボの武器なんか作れるのか？」

作者「お前が知らなくてどーするよ。まあ、お前の持つてる『改革・

変革』はかなりチートな能力の上に割と自由度は高いから作れなくは無いな。」

晃「おお、カスタムロボの武器は作れるのか！」

作者「一応忠告しておくが、お前自身はまだ『改革・変革』の能力を完全に把握して無いだろ。」

晃「うつ……………」

作者「だから今現在だと、お前が作れるものはスタンダード系とか追尾機能とかが無いシンプルなものだけだぞ。」

晃「真剣か……………」

作者「本気だ。」

晃「orz……、だが作者よ。その言い方だとオレが能力を完全に把握したら、ドラゴンガンとか作れるようになるみたいだが。」

作者「だからさっきから言ってるだろ！何で、お前の能力なのにいちいち他人が説明しなくちゃいけないんだよ！！」

晃「なんかスマン……。そうだよな、例えば他人から教えられても、自分の力を把握も出来ずに力に溺れたり十二分に能力を発揮できなきや意味ねえしな。」

作者「分かればそれでよし！！まあ、安心しろ。能力を把握さえすればドラゴンガンどころかオロチも作れるから。」

晃「オロチって……、威力デカすぎだ！」

作者「さあ、次行ってみよう。」

晃「また、スルーされた！」

作者「次は一方通報様から頂いたアイデアです。」

作者「『無限の銃製も無限の剣製のように形状変化ができるならアイマードコアの実弾系の銃なんてどうですか？（もちろん収縮させて。）』」

作者「『例えばACfAなら拳銃や散弾銃、狙撃銃に短機関銃、他には機関銃、ガトリング、グレネードランチャー、拳銃の果てにはレールガンまでありますし。（EN系の銃を含めなかったのは学園黙示録には合わないと思ったからです。）』」

作者「だそうだ。」

晃「アイマードコアか、オレはやったことないんだよな。作者はどうなんだ。」

作者「一方通報様の例で出ているACfAとAC4、あとはPSPのACSLだな。」

晃「何言ってるか分からねー。」

作者「まあ、知らなかったら仕方ないだろ。」

晃「なあ、作者。オレってACシリーズやったことないのに作れる

のか？無限の銃製も無限の剣製みたいにイメージをちゃんとしないと作れないんだろ？」

作者「作ることは可能だが、お前が知らないのならかなり厳しいな。」

作者「まあ、アルフェスト呼んで来て、神様パワーでお前にACシリーズの武器とかの知識を入れてもらうか。」

晃「おいおい、そんな軽々しく神様呼んでいいのか？」

作者「大丈夫だ！」

晃「その根拠とズバリその心は？」

作者「作者だからだ！-！」

晃「それが理由かいぐ（。）。」

作者「さあ、早速アルフェスト呼んじゃおう」

晃「だから、ツツコミ無視するな-！」

作者「ではでは召還！」

アルフェスト「だれじゃ、いきなりワシを呼び出しおったのは？というか何処に居る？」

作者「ここだ、ここ。」

アルフェスト「おお、作者ではないか。もしや、ワシを召還したのは作者か？」

作者「そゆこと。」

アルフェスト「ん、そっちにいるのは晃か？」

晃「ああ、当たり前だぜアルフェスト。直に話すのはかなり久しぶりだな。」

アルフェスト「そうじゃの。ところで、何故ワシをこんな所に呼び出したんじゃ？」

作者「晃、説明パス！」

晃「説明投げやりかい！まあ、仕方ねえか。」

晃「実はな、武器のアイデアを募集してて、アイデアをもらったのは良いけどオレがそのアイデアに関する知識がないからアルフェストにどうにかしてもらおうと思って作者が召還したらしい。」

アルフェスト「そう言うことか。そんな事ぐらいならやってやるぞ。」

晃「そうだよな、駄目だよな……、っていいのかよ！！」

アルフェスト「なに、友のためならお安いご用じゃい。」

晃「そうか、ありがとな。」

アルフェスト「では、やるかの。」

アルフェスト「破ッ！」

晃「ぐあ、頭痛がー」

アルフェスト「今回は時間を掛けずにやったからの。まあ、頭痛は3分程で収まるから我慢せい。」

アルフェスト「じゃあ、ワシは帰るぞ。ではな。」

作者「晃、大丈夫か？」

晃「ヤバい…、情報量はそこまで多くねえが、一気に入れるからかなりいてえ」

作者「そうか、仕方ないな。回復するまで次のアイデアでも紹介するか。」

作者「ということで。お次は、死竜様から頂いたアイデアです。」

作者「『FFのガンブレイドみたいな銃機構のある剣、モンスターハンターのガンランスのような大型銃』」

作者「おお、ガンブレイドいいすよねえ。近く中の敵を相手にするのは持ってこいだな。」

晃「ふう、痛みは少しだけだが、おさまったので復活だ。」

作者「晃、お前復活早いな。まあ、お帰り。じゃ、アイデアみてち

よ。」

晃「分かった。なにに、ガンブレイドか。ガンブレイドなら知ってるから作れるな。」

晃「もう一つは、ガンランスみたいなやつか。」

作者「死竜様へ。実は、モンハンのガンランスみたいな大型銃は、既に考えたバケモノ銃というか兵器があるので活躍所はないかもです。スイマセンm(――)m」

晃「……え……なあ、作者よ。」

作者「何だ、晃よ。」

晃「バケモノ銃というか兵器って何だ？」

作者「うむ、それは必ず本編で一回は出すつもりだから楽しみにしておけ。」

作者「ちなみに、威力は戦車の砲弾なんか目じゃないぐらいだから」

晃「そんなもん楽しみに出来るかボケ！！怖いわ！！つか、出すな！！！！」

作者「だが断る！」

晃「はあ、理不尽だ……。」

作者「あと、ガンブレイドだけど。適当に作ったら、ブレイドより

もガンの方がメインになっちまうから気をつけろよ。」

晃「マジか、ブレイドよりガンがメインってガンブレイドの製作者の意志無視してね？」

作者「さあ、次いこ。」

晃「いい加減に流すの止めろ!!」

作者「最後は、霊華@アカガミ様から頂いたアイデアを発表です。」

作者「『水鉄砲（殺傷レベルの水圧）・パチンコ（打ち出した玉を爆破）・エアガン（BB弾が破裂）・1m定規（真剣の切れ味）・空き缶（空気圧縮爆弾）』」

晃「なあ、作者よ。」

作者「なんだ。」

晃「武器じゃないようなものってのが良く分かったぜ。」

晃「たしかに、こりゃー武器かオモチャか良く分らんものがあるな。」

作者「ああ、エアガンって改造なら、いず知らず。まさかの、弾が破裂だし。パチンコも弾を爆破だからな。」

晃「定規なんか、真剣の切れ味って周りから見たらナニコレ…はははって感じだな。」

作者「しかも、空き缶の空気圧縮爆弾って、とある科学の超電磁砲に出てきたやつじゃね？」

晃「まあ、水鉄砲が唯一マシか…。」

作者「そうだな。水を使った裁断機ならリアルでもあるからマシに見えるな。」

晃「にしても、この『靈華@アカガミ』って人。方向性はともかく、発想力は凄いな。」

作者「ああ、他のアイデアの幾つかは、こう来たかゝって納得とか予想できるけど。」

作者「『靈華@アカガミ』様のアイデアは流石に予想ガイでしたよ。」

作者「何はともあれ、皆さん!!。」

晃「沢山のアイデア有難う御座い!!。」

作者&晃「「!!マス!!。」」

晃「……………変なところで区切ったな。」

作者「言うな…。」

晃「やっと、返してくれた!。」

〈アンケート2の話題〉

作者「お次は、アンケート2についてです。」

晃「おお、この意見ならオレも見たからすぐに会話が開始出来るぞ。」

作者「お前、武器は見えないのにヒロイン関連は見てるって…、浮気する気満々だなw」

晃「おいおい、作者よ何言ってるんだよ。オレの相手になるかもしれないヤツぐらい気になるだろ。」

晃「だから見たんだよ。」

作者「まあ、そういうことにしといてやるよ。」

晃「誤解だー！！」

作者「さあ、なんかほえてるヤツはほっというアンケートの結果を發表いたしまする。」

作者「結果は『亜沙さん固定に一票』、『固定しないが一票』です。」

作者「固定しないを選んだ方の希望キャラは『原作、あかね色に染まる坂。キャラ、白井 なごみ』となりました」

晃「にしても、『白井 なごみ』ってまた、別の意味で凄いのが来たな。主に体系的な意味で。」

作者「たしかに、ツルペタだもんな。」

晃「でも、学園黙示録の主要キャラは、ありすを除いたら巨乳ばかりだからバランスいいかも。」

作者「言われてみれば、たしかにバランスいいかも。」

晃「だろ。」

作者「で、話ズレるが、晃はあかね色に染まる坂だと誰が好きなんだ？」

晃「オレは長瀬 湊だな。あのツン三割、デレ七割ぐらいなのがいー！」

晃「作者は誰なんだ？」

作者「ズバリ、霧生 つかさだ。巫女服でやられたZE」

晃「あゝ、たしかにアレはかなりのダメージだったな、萌え的なダメージが。」

晃「で、話を戻すけどさ。結局どうすんだ？作者や。」

作者「なにがだ？」

晃「いや、固定と固定しないが一票ずつだから白井　なごみは出すのか？」

作者「うゝん、今の所は出す予定だ。サブヒロインで。」

作者「だが、作品の流れや周りの意見によつてはメインヒロインに昇格や、主人公たちと別行動にして本編から退場も有り得るな。」

晃「そうか、でもあの戦闘力は欲しいよな。」

作者「(････)――多分だが、白井　なごみは学園黙示録のキャラの中だと孝以上の戦闘力あるよな。」

晃「たしかに、武器はアレだが戦闘力は高いよな。」

作者「まあ、なごみがく奴ら>に対する生理的嫌悪感や、お前の戦闘時の性格に耐えられるかは謎だがな。」

晃「あ、そうだ。作者や、なごみの武器は霊華@アカガミ様の武器にしたらどうだ？割と似合いそうだし。」

作者「お、いいかもな。それ。」

作者「でも、流石に武器の製作はお前に頼むぞ。霊華@アカガミ様のアイデアの武器が街中にあるわけないからな。」

晃「ああ、もとよりそのつもりだ。」

作者「じゃあ、頼んだぞ。」

作者「では、文字数が5000字超えてしまつて、このままではかなり長くなりそうなので、次行かせてもらいます。」

晃「コラコラ、愚痴こぼすな。」

### 〈アンケート3の話題〉

作者「アンケート3は『仲間の死亡を有りにするが一票』でアンケートにない『死ぬのは紫藤辺りでお願いしますが一票』です。」

晃「『死ぬのは紫藤辺りでお願いします』か。」

作者「コレ見たときは、やっぱり紫藤はみんな嫌いなんだな（爆）  
つて思ったな。」

晃「まあ、紫藤はみんなの敵だよな。」

晃「で、どうすんだ作者。死亡キャラとか紫とか。」

作者「お前、紫って（爆）。まあ、死亡キャラは孝の友人をオリキヤラで出すか、お前の友人って位置でオリキヤラを出して殺そう思つてる。」

作者「まあ、作者の技量不足で死亡用オリキヤラは作れるかは謎だな。」

作者「で、紫は。晃、こっちにこい。」

晃「なんだ？」

作者「実はな。紫にはお前に、くくくくくくしてもらおうと思ってるんだよ。」

晃「作者よ。あんたエグいこと考えるな。でも、今のオレで出来るのか？」

作者「今は無理だが、原作開始時には出来るようになってるぞ。」

晃「なんというご都合主義。」

作者「堅いこと言うなよ。紫をイジめる為なんだからさ。」

晃「イジメって、作者の意見はイジメを超えて拷問だろ。」

作者「まあまあ、使う相手を考えたら大丈夫だろ。」

晃「ああ、たしかにな。どうせ、使う相手は紫なんだし。」

作者「そゆこと。」

晃「でもさ、作者。これって下手したらショック死するか廃人に成るかもしれねえ代物だろ。」

作者「いや、下手しなくてもショック死するかもしれねえ代物だろ。」

作者「まあ、『死ぬのは紫藤辺りをお願いします』って意見も来てるから大丈夫だ！」

晃「まあ、確かに意見も来てるし、原作でもいつの間にか消えてたから死んでも大丈夫だな！」

作者「じゃあ、そろそろ終わるか。」

晃「そうだな。」

作者&晃「アンケートに回答くださった。」

作者&晃「『HOHJ様』『一方通報様』『死竜様』『霊華@アカガミ様』」

作者&晃「ありがとうございます。」

作者「意見が反映できないアイデアもあるかもしれませんが。」

晃「そこは、申し訳ない。」

作者「頑張つて反映出来るようにするので。」

晃「応援よろしくお願いします。」

作者「また、アンケートに回答していない方々も。」

晃「応援よろしくお願いします。」

作者＆晃「「では、サヨウナラ」」

「実は終わりじゃなかった。ラスト、作者から」

作者「皆様、更新遅れてしまって申し訳御座いませんでした。」

作者「また、こんな駄文の詰まったトークショーを見ていただき、ありがとうございます。」

作者「もし、このようなトークショーが好評だった場合には。」

作者「アクセス数や、本編が行き詰まった時などに雑談などのトークショーを開催する予定です。」

作者「皆様、どうかこれからも当小説をよろしくお願いします。」

## トークショー形式でアンケート結果発表（後書き）

HOHJ様、一方通報様、死竜様、靈華@アカガミ様。アンケートの回答ありがとうございます。

にしても、靈華@アカガミ様のアイデアは流石に驚きました。これって武器…なのか……みたいな感じで。

ところで、読者の皆さんの中であることに気付いた方はいましたか？実は、このトークショーでは作者は一人称を使っていません。

もし、気付いていない読者の方々の中で読み直して確認する人がいたら、一人称がないことに驚いてくれた方がいたら幸いです。

あと、実は何気にこのトークショー。元々は雑談なども入っていて、私こと作者「α」にしては文字数が異常でした。

その数一万五千字オーバー！

流石に量が多すぎるので、削りまくってアンケート結果についての話のみにしました。

それでも、空白・改行含んで数えると約七千字なんですけどね。

修学旅行までには能力の話を書けるつもりだったんですが、昼間せっかく書いたのに保存を忘れて消えてしまいました。ほんと、なに

やってんだか。

なので、能力の話は修学旅行から帰って来てからになりそうです。  
修学旅行は10/19〜10/21なので投稿は22日に出来るよ  
う頑張ります。 m ( | | ) m

読者の皆様方、これからもよろしくお願いします。

## 第6話：能力とかの確認<中>（前書き）

変更したあらずじにも書いてあるように、テストの間隔があまりなく執筆時間が確保出来まぬ。

しかも、ちゃっかり10月中にもう一つ投稿できなかったよorz  
とりあえず、この3日間で頑張って書き上げた分を投稿です。

書いた分だけを投稿したので、能力とかの確認の話は三部構成になつてしまいました。

もしかしたら、最後の部を書き上げたら、編集してこの部と最後の部とをくっつけて二部構成にするかもしれない。

やるかは分かりませんが……

とりあえず薄いですが、本編どうぞ

## 第6話：能力とかの確認<中>

〽一時間後〽

「……………う…っん…」

ああ、意識がハッキリしねえ。

やっぱいきなり腕をC4で吹き飛ばすのは不味かったか……

そっぴゃ

「オレの腕はどうなってやがるんだ…？」

そう思い、いつものように腕を動かしてみるよう思考する。

「腕は……、あるな。感覚が鈍いのは初めての再生だから治りが遅いからか？」

おそらく、初めての再生のせいのか細胞の再配置？などが上手く行われていないせいだからだろう。

「腕を吹き飛ばしておいて、多量出血で死んでないってことは感覚はともかく、再生自体は上手く出来たようだな。」

「しかも、どうやら血は戻ってるらしいな。」

この様子を見ると真祖の吸血鬼の回復力、もとい再生能力はやはり時間逆行だったようだ。

「しかし、真祖の吸血鬼の回復力だけだと不安だな……、どうするべきか？」

「そつだ！あれを作るか。」

く。月。日く

今日は無限の銃製くアンリミテッドガンズワークスくの応用であるMGS関連のモノを取り出してみることにする。

これが上手くいけば回復力や戦力がかなり上がるはずだ。

まずは、武器関係からやるとするか。

ということで、個人的に使ってみたい武器から出してみた。

その名も『高周波ブレード』

文字通り、刀身に高周波を流しているブレードだ。

MGSファンなら、サイボーグ忍者や雷電の持っている刀として強く覚えていただろう。

この『高周波ブレード』の最大の特徴は高周波を刀身に流すことにより、威力・切れ味を向上させる点にある。

→\*詳しくは武器・装備・用語解説等一覧の中にある高周波ブレードをご覧ください。

ちなみに、某人型決戦兵器のショルダーパックに装備されている『プログレッシブ・ナイフ』や、某王の力を持つ反逆者に登場する『MVS』も高周波を流すことで威力・切れ味の向上をはかっている高周波武器だ。

豆知識を言うと、こういった武器は高周波武器というカテゴリーよりも、振動武器と表される場合もあるらしい。

また、現代では高周波武器は実現不可能な武器とされている人が多いだろうが、実際には医療分野において『超音波振動メス』という高周波・超振動を用いた器具が実際に使われており、高周波・超振動を用いた武器などは理論上では、作ること自体は可能である。

話が脇道に逸れてしまったが、『高周波ブレード』を取り出してみた。ちなみに、モデルはMGS4の『高周波ブレード』である。

軽く素振りをしてみる。少しグリップがうまくフィットしなかったので、一度破棄して再度取り出した。

今度はうまくフィットしたので、素振りから薙ぎ、突き、払い、などの基本的な武器の動作をしていく。

ある程度の動きを一通りやると、用意してきた鉄板に切りかかった。

草壁 操の経験などをもつたためなのか、鉄板の斬線を見ることが出来たので鉄板をいとも容易く切ることが出来た。

『高周波ブレード』のモデルをMGS4タイプにした為なのか、ブレードの部分が赤くなっている。

何はともあれ、『高周波ブレード』は使えたので、次は装備品を出すとする。

取り出したのは、『ソリッド・アイ』という眼帯型の片目用多機能ゴーグルだ。

この『ソリッド・アイ』は、登場した原作であるMGS4では、周囲のSOP情報を視覚化する他、望遠鏡、赤外線暗視ゴーグルの機能を備えた眼帯状の機器。

という、潜入ミッションにおいてかなり心強い装備品なのだ。

取り出した『ソリッド・アイ』を装備してみて、『ソリッド・アイ』に搭載されている様々な機能を使用可能か試してみたが、何故か使用中に何も見えなくなってしまった。

おかしいと思っていたときに、『ソリッド・アイ』はバッテリー駆動だったのを思いだしたので一度破棄して、改革・変革を用いてバッテリーを無限にした『ソリッド・アイ』を取り出して再度、テストを再開した。

搭載されている機能に何も問題がなかったので次にいくとする。

次に試すのは、本来ならプレイヤー自身が直接的な使用が出来なかったモノを取り出すので成功するのか疑問だが、成功すると願いながら取り出してみた。

取り出したのは『ナノマシン』という、とても小さな科学技術の結

晶である。

この『ナノマシン』は様々なタイプがあり、情報の共有や、無線、体調管理、止血、栄養剤の注入、ろ過されていない水のろ過、など『ナノマシン』のタイプによって持っている機能や持っていない機能などのばらつきは出るが大まかに持っている機能はこんな所である。

オレが取り出したのは、原作でヴァンプというキャラクターに注入されていた超回復力を主観において機能を持つ、いわば疑似的な不死能力を持つ『ナノマシン』である。

これを取り出したのは、真祖の吸血鬼の回復力だけでは瞬間的な回復が遅いため少し心持たなかったからである。

この『ナノマシン』自体には真祖の吸血鬼の回復力のような腕が吹き飛んだりしたときに、腕が回復する力はないが、瞬間的な回復力では、この『ナノマシン』は傷口をすぐに修復出来る程の力があるので、回復力の強化につながるであると思い取り出したのだ。

しかも、改革・変革によって人体が血液を生産するのと同じ機能をこの『ナノマシン』に持たせており、貯蔵能力も付けたので、出血死にならないようにする対策もしたのである。

取り出したあと、オレは注射器を使って『ナノマシン』を注入した。

『ナノマシン』の回復機能を試すために、コンバットナイフを取り出し、腕を斬りつけてみた。

斬りつけた直後は、血が流れたが『ナノマシン』が正常に働いたのか、すぐに流血は止まり皮膚が再生されていた。

どうやら、『ナノマシン』の取り出しには成功したようである。これで、回復力についての心配はなくなったな。だが、一つ言いたいのは、『ナノマシン』の注射が普通の注射の倍以上の痛みがあった事だ。

あれほど痛い注射はもう嫌です……

次は、パワードスーツなどの追加装備にあたるモノを取り出してみた。

取り出したパワードスーツはMGS2において、ソリダス・スネークが着用していたモノである。

この、パワードスーツの凄い点は、素材に人工筋肉の繊維を使用しているために、内部に装着されているセンサーが衝撃を感知すると、

人工筋肉が反応し衝撃を吸収・流すことによりダメージを軽減する点にある。

また、背面部に二本の触手スネークアームを装備しており、それによる打撃攻撃や、触手内に装備されている武器の使用が可能である。

身体能力の強化が可能なオレが何故このスーツを出したかと聞かれると、ただ単にソリダス・スネークが好きだけだったりする。

愛国者達の手から、世界を救おうとした為に、世界の敵になるなんて生き方には感動したね。

と、まあ個人的な理由が全部を占める理由で取り出したのだが、ヤバいことが分かってしまった。

それは、改革・変革を用いると某パワードスーツを着て占拠されたコロニーを取り返すシューティングゲームに登場したパワードスーツが動力源などをどうにかしたら使えるようになるのと、某鋼男になるためのスーツがこちらも動力源などをどうにかしたら使えるようになるのが分かったからだ。

改めて、改革・変革のチート具合を再認識した瞬間だったぜ。

だって、アイ。ンマンスーツとか武器とかその他機能が異常だろ。  
あんなの使えるとか、マジハンパね…………。

さて、気を取り直して次に進めるとするか。

次はそうだな、メダルギアでも試してみるか……………

そして、色々あったが無限の銃製＜アンリミテッドガンズワークス＞のMGS応用は終了したのだった。

## 第6話：能力とかの確認<中>（後書き）

えーと、またテストがあります。

活動報告にも書いていますが、復習テストと言う名の実力テストが11/9にあります、しかも、そのまた4日後に塾の模試があります。

はい、ちゃっかりこの数日は勉強してました。だってこのテスト達って偏差値とかも出るヤツなんですよ、ちよつとはネットから離れて勉強しちゃいますよ。

それから話は変わりますが。実は、前のアンケートを結果発表の話を載せたあとにわざわざメッセージで「ヒロインに11eyesの橘 菊理さんとリゼット&リーゼロットさんを出して欲しいです！」というメッセージが届いたんですが、どうでしょうかね。

作者自身は出してもいいんですが、アンケートの締め切りを過ぎた後にきたメッセージなので採用するか悩んでいます。

それに、あくまで作者は学園黙示録の世界観にしたいので11eyesの橘 菊理とリゼット&リーゼロットは能力を取っ払うことになってしまつとおもつので戦闘関係がね……

ということなので、公平性をもたせるためにも再びアンケートを採ります。

アンケートの応募方法は前回と変わりませんが若干なら簡略化してくれても構いません。

＊お知らせとアンケートを参照

また、白井 なごみは正式採用されているので空き枠は二つです。

期限は11/9の23:59までとします。ただし、メッセージなら1日遅れの11/10の23:59まで待ちます。

では、勉強してまいります)・・・ピシッ

## 能力とかの確認<下>（前書き）

かなり遅まりました、スイマセン。

3月10日に公立受験なんですよ。で、それが終わったらネット制限解放されるのもうちよと待っててください。完結はどんなにグダグダになってもさせるので。

## 能力とかの確認<下>

〽。月。日〽

結論から言ってメタルギアやアーセナルギアは出せるが反動が異常？なことが分かった。

→主人公設定参照

なので『妖力・氣・魔力・魔術回路』について何かをやろうと思う。

まずやることは『妖力・氣・魔力・魔術回路』を改革・変革で色々いじれるかを試す。

これらは、自身に対して能力を行使するということから、改革・変革で実質的に量や本数が0から∞と考えるぐらい変更可能なことが分かった。

次に、身体強化を試す。順番は妖力・氣・魔力の順だ。

その結果、妖力は瞬間的な強化が最も強いことが分かり、氣は全体的に身体能力を上げる為にバランス、魔力は一部のみの強化が優秀なことが分かり持続性があるといった感じになった。

次は、某子ども魔法先生の中で出てきた『咸卦法』をやってみる。

咸卦法は無心とコントロールが肝心になってくる。だが、それは”普通の者”に当てはまることなのだ。無心になるのは完全に同じ量で合成するために無心が必要な訳であって、完全に同じ量で合成するなど、オレは改革・変革で総量や発生量を調整してやればいいだけなのだ。

なので、割とすぐに終わったりしてしまった。しかし、俺には妖力もあるのだ。ならば妖力も咸卦法に混ぜてみたらどうなるか？という好奇心から妖力も投下してみたのだが、かなり面白いことになった

なぜなら、氣と魔力の複合物……ようするに咸卦法状態のエネルギー？が質量を持って実体化したのだ。しかも、汎用性がかなり高く、剣や弓矢に手裏剣etc.などかなり便利だったりする。

★イメージは幽。白書で登場した桑原の霊剣とか霊手裏剣が分かりやすいかも。色は白っぽい紫

まあ、ネックはかなり燃費が悪い……、1分保たせようとするだけで、「燃える天空」の半発分位使う。うぬ、オレ以外だとすぐ燃料切れをおこすな……

とまあ、内部エネルギー系は大まかにやったので、次は趣味で貰った武器を試そうか。

それは、『草壁七剣』だ

とりあえず、火車切広光は軽く使ったことがあるから確かめをしな

くていいとして、他のは試した方がいいだろう。

まず、試すのは『蜘蛛切』と『鬼切』だ。

原作では、この二つは対になって登場しているから、とりあえず分けて一本づつ使ってみる。

結果はただの斬れ味、強度が高く、妖力の伝導率が良い刀だった。

だが、次に二刀流として同時に使うと性能が格段にあがったのだ。それは、刀同士が共鳴でもしているのか、発生する妖力が数段に上がったのと、草壁五宝のように固有の力が宿ったのだ。

固有の力は、F a t e / Z e r o に出てきたZ e r o ランサー。要するに、ディルムツド・オディナの宝具である破魔の紅薔薇くゲイ・ジャルグ>と必滅の黄薔薇くゲイ・ボウ>の能力が多少形が違うがそれとかなり似た能力をもっていたのだ。

それで原作で雪子は、虚無の魔石くクリフォトのませき>の恩寵による自己再生能力が草壁 操に『蜘蛛切』と『鬼切』で斬られた時に、発動しなかったのか。納得した。

次は、『小烏丸天国』だ

『小烏丸天国』は妖力を溜め込んで、解放することで強力な技が使える刀だった気がする。

なので、どこまで溜め込めるかを試したんだがやらかした……

どうやら容量の限界を超えたらしく、刃の部分が暴発してしまったのだ。

が、流石は神様製。一分もしたら刃がはえてきた。とりあえず、溜め込みすぎは注意しよう。

『小烏丸天国』の次は、『雷切』だ

この発生している雷を妖力を込めたらどうなるのか？をやってみたが、一定量を超えるとプラズマと磁場が発生して、簡易ライトセイバーになっちった。

なんだか、草壁七剣がいろいろとチートと思えるようになってきて、残りの二振り調べるのがすこし不安になってきたが、やっとくに越したことはないだろう。

つてことでお次は、『鮑切長光』だ。

原作では殆ど登場する場面がなかったのと、出て来てもすぐに折られた、なんか虚しい刀だ。

設定では暗器が収納されているとか、刃が伸びるとか書いてた気がするから何の暗器があるか、確かめてみるか。

……………で、あったのは、柄の底にナイフ（射出機能付き）と手で持つ少し上の所に、二方手裏剣（刃が上下にしか付いていない手裏剣）とヒ首が入っていた。

で、刀の刃がどこまで伸びるかは妖力に比例するみたいだが、伸びて3mで止まった。おそらく、これ以上は物理的な問題で無理なのだろう。

最後は、天下五剣の一つで、草壁五宝の最高峰の『真打・童子切安綱』だ

実際の伝承とかによると、童子切は京都と丹波国の国境の大枝（老の坂）に住んでいたとされる鬼の頭領、『酒吞童子くしゅてんどうじ』の首を切ったとされている刀だ、ちなみに国宝で天下五剣の一振り。

国宝指定名称は、『太刀 銘安綱（名物童子切安綱）附糸巻太刀、梨子地葵紋散太刀箱くたち めい やすつな めいぶつどうじぎり やすつな つけたり いとまきたち なしじあおいもんちらしたち ばこ』だそうだ。

実際の伝承とかで、これだけすごいんだ！なら、妖刀のこいつはさぞかし良い刀だと思ったんだが、予想以上だ。

まず、原作にあった使い手への侵食。本来ならマイナス面の大きい所なんだろうが、オレは超速回復と侵食されることによって、既に存在しているモノであるのに改革・変革で干渉可能であったり、刀の能力が試し切りなどをしていないのに、わかってしまったのだ。

この、刀は伝承の酒吞童子の首を切ったことから来ているのか、首に対する攻撃には絶対切断の概念が在ったのだ。正直怖い……、だって絶対切断だからどんだけ防御しても刀が首を狙っていると認識したら紙切れみたいな感覚で斬り裂くんだぞ、浸透攻撃レベルだ

ぞ、おい。

まあ、強いに越したことはねえんだが。

全部の刀を試して分かったことは、一刀流なら『真打・童子切安綱』が、二刀流なら『蜘蛛切』と『鬼切』が一番強いみたいなのと、妖力を込めた量によったら原作よりも強くなるってことだな。

さて、。。。に連絡するか。

「あゝ、こちら。。。だ迎え頼むわ。」

「了解。輸送へりを回すのでそれに乗って下さい。」

「あいよ。じゃ、切るぞ。」

さてと、劫の眼によるとパンデミックまであと一年半位か。

あゝ、リビングデッド虐殺が楽しみだ。

## 能力とかの確認<下>（後書き）

最後のは無理やり入れたので、グダグダになっちゃったかな

待っていてくれた方々に土下座レベルで罪悪感……

読んでくれて感謝。

あと、なぜかバグったのか12月に更新したはずの武器ページが更新されていないことに26日に気がついた……………orz

## とある戦場にて……………（前書き）

おひさです。

受験終わったら落ち着くかな？と思っていたのですが、GWまで結局落ち着きませんでした……………

まさか、新人生統一テストというものがあるとは思ってもありませんでした。

はつきり言つて、今回の更新は2ヶ月更新してませんタグを取るために書いた所詮、時間稼ぎなので見なくても結構です。

あとこれ、実は初めてMGS4をやった時に思い付き、書いた「次世代の傭兵時代の起こり」という個人的に粘って書いた小説？の内容を抜き出し、圧縮して、3000字程にしたものです。

「次世代の傭兵時代の起こり」で言う第3章から抜き出したもので、一応この戦闘の起こりだけ説明を

ナノマシンやパワードスーツを世界で初めて実用化・開発したのは主人公の居るPMCという設定で、第3章ではまだ主人公の居るPMCが開発したとは世界に発表してません。今回の話はユーラシア大陸のとある国で内戦が起き、政府軍に支援を依頼され、依頼ついでにナノマシンやパワードスーツのデモンストレーションしてしま

おうという流れが元です。

とりあえず、とぞ。

とある戦場にて……………

ユーラシア大陸のどこかの国のとある戦場にて……………

）side とあるPMCの中隊長）

「これより作戦を開始する！！」

依頼主である政府軍の指揮官の合図と共に俺たちの戦闘が始まった。

作戦目標はトンネル内にある要塞化された前世紀の兵器工場の攻略である。

作戦に際して得た情報によると

- ・兵器工場に続くトンネルは一本のみ。
- ・トンネル内は機関銃を多数設置の他、前世紀の装甲車で道を固めている。
- ・兵器工場の門の両隣に塔があり、そこには要塞化される前、つま

り兵器工場として稼働していた当時に防衛用としてブローニング M2 重機関銃が設置されていたらしく、反乱軍は使用していると推測・トンネル内が装甲車などで所々道が止められているので、当作戦は歩兵のみとなる。

だいたいはこんなもんだろ。

俺はこのことを部隊の隊員に伝え、装備を整える。

部隊の装備は、ある特殊なスーツに P90を2丁、XM29 OICW、M60E3、SPAS-25の中から組み合わせて隊員たちが思い思いに装備している。

部隊の装備が整ったのを見ると俺たちは、戦場へと赴いた。

ドットドットドットドットドット！！！！

幾つもの機関銃が火を噴き俺たちを攻撃している。

発射音からして大口径の機関銃なのだろう。

政府軍は動けないようだ。なら俺たち力を見せてやろう。

SOPリンクを確認すると、全部隊員に無線をする。

「これより敵陣を突破する。XM29 OICW持ちは数発グレネードを撃ち込み、撃ち込んだ後は、後方より支援。他のものは弾幕を張りつつ進撃。敵の機関銃を奪うぞ!!!」

「「「「「「「「「「了解!!!!!!」」」」」」」」

全員の返答と同時に進撃を開始する。

XM29 OICW持ちがグレネードを撃ち込み始める。

バシユッ!!バシユッ!!バシユッ!!

20mmエアバーストグレネードがガス圧で撃ち出される

ドオン!!ドオン!!ドオン!!

設定された、距離を滑空したあとグレネードの弾頭が炸裂する。

それを確認すると

「ゴー!ゴー!ゴー!」

俺は隊員に突撃の合図を出す。

バツバツバツバツバツバツバツ！！！！！！

M60を持った隊員が牽制を兼ねてトリガーを引き、弾幕を作り出す。

バンッ！！バンッ！！バンッ！！

SPAS-25を持った隊員が接近戦を仕掛ける。

パパパパパパパパッ！

P90を持った隊員が突撃をする。

と、不意に俺を死角から狙う敵がいる事がリンクにより分かり、俺はレッグホルスターからベレッタM92を強装弾使用に改造した銃を取り出しトリガーを引く

強装弾が、特殊なシリンダーを通り、変わった音を出す。

バリインッ！！！！

そして、ヘッドショットを決める。

撃ち抜かれた敵の顔は驚きに満ちた顔で固まっていた。なぜ、気付いたのか？とでもいうように。

だが、そのような事は俺に起こったことを皮切りに次々と起こる。

1人がしゃがみ込み、1人が振り返る。そして、お互いに狙われていた敵を倒すという普通では有り得ないカバーや。

突撃した隊員たちの間や、弾幕を張っている隊員たちの間ではリロードのタイミングを、お互いにカバーしあうことで絶え間ない進撃と弾幕を繰り返しているし、後方支援の隊員たちは、前にいる隊員が倒して欲しいと思っている敵を、まるで分かっているとでも言うように次々と撃ち抜く。

そうした、周りから見れば有り得ない程の連携で、しかし俺たちにとっては、もはや当たり前の動きで、政府軍や他の傭兵を離してしまっただけで突出した進撃をしていた。

そうした進撃を幾つか繰り返して、最終的には重量機関銃のある塔まで一人も欠けることなく進撃した上に、その塔も落としてしまう。

政府軍などが後から追いついてくるが、彼らはあまり役にたっていない。せいぜい、撃ち漏らしを倒してくれたぐらいだろう。

そう、最終的には、最初の制圧以降ほとんどの敵を制圧したのは俺たちとなっていた。

「作戦終了だ。依頼主に報酬をもらって帰還しよう。」

この作戦の成果は、俺たち以外の全てから異常と思われるとは俺は知らなかったが……………

｝side とある新人政府軍隊員｝

今回作戦に参加した傭兵の中でひととき目立つ部隊がいた。

それは、ヘルメットと何かの特殊装備であろうか？

それらに全身をおおわれた、30人程のどこかの傭兵がP90を2丁レグホルスターを改造したような物で足につけ、すでに開発が中止された筈の銃である、XM29 OICWを一丁装備した状態で駆け回っている。

一部の者はP90かXM29 OICWの代わりに、M60E3かSPAS-25を持っている。

少しでも軍事関係の知識を持っている人なら、この部隊の異常性が分かるだろう。

一瞬のミスが死に繋がる戦場でこれほどの重装備、しかもその部隊がいるのは後方ではなく固定砲塔などがある最前線なのだ。

確かに、敵の陣を突破するためにはある程度は装備は重くなるが、それでも突破するために機動性を損なわない程度に押さえる筈である。だが、彼らは他の部隊の者から見れば機動性度外視の重装備にしか見えないがいるのは最前線なのである。

更に異常なのは、銃だけでも10kgを軽く超える装備であるのに対して、その重量を超えるような何かの装備で全身を覆っているにも関わらず、最前線の最前列とも言える場所にいるのである。

彼らの異常性に反乱軍の精神的圧迫はかなりの物であろう。彼らが味方のであるはずの自分でも圧迫感を感じるのだ。彼らに対峙している反乱軍は正確な判断ができていないだろう。

だが彼らの異常性は私の想像以上であった。

今回の作戦目標は、言わば要塞の攻略であった。反乱軍が要塞というのは少しおかしいかと思うが、事実要塞なのである。

反乱軍は、トンネルでしか行き来出来ない造りになっているかつての兵器工場を要塞化しており、その街に通じるトンネルは一本しかないため、自然と防御が堅めやすくなる。

彼らはトンネル内に、機関銃や兵器工場から持ち出したであろう前世紀の装甲車で道を堅めており、兵器工場前の門の両隣にある塔には、ブローニングM2重機関銃を一つずつ設置しているのだ。

その作戦目標を達成するには、勿論これらの防御陣形を突破しなければならぬ。

私は……いや、私を含めた他の政府軍隊員や彼らを除いた傭兵達は無理だと思ったハズだ。

だが、彼らは違った。

その重装備を感じさせないほどの軽快な動きで敵の防御陣形を崩しに行き、同じ部隊の隊員と見事すぎる連携で着々と進撃していった。

その動きは、やはり異常である。

例えば、隊員Aは認識ないが攻撃が可能である位置にいるとして、

別の隊員Bは認識できるような角度にいるが敵を攻撃出来ない位置にいる場合はどうだろうか？

答えは、まるで味方の五感を感じているかのように、隊員Bが認識した敵を隊員Aが倒したのだ。

はつきり言って味方の五感を感じるなど不可能であろう。だが、今の例えを彼の傭兵達は進撃中、まるで当たり前とでもいわんばかりに何度もしなしていったのだ。

彼らは異常すぎる。最終的にはその異常な連携で一人も欠ける事なく作戦を成功に導いてしまった。

後から聞いた話なのだが、彼らは試作型の情報相互間システムを使用していたり。着ていた装備はパワードスーツで、それにより重量を軽減していたらしい。

あの戦闘を見ていた全ての兵士は思ったであろう。

あれが、世界に広がれば戦争における戦闘の定義が変化してしまう程のものだと……………

とある戦場にて……………（後書き）

圧縮しすぎた気もしないではないのですが、所詮時間稼ぎなので……………

本編更新が、GW中にできたらいいな……………

妄想爆発やり過ぎました…………

現状のまま、このssを続けたら、妄想爆発の意味不明、支離滅裂なことになりそう、というかもうなってる感じがするので、主人公の能力はそのまま、それ以外を割と多めに改訂します。

別に、ssって個人の想像（妄想）だからそれぐらいはいいいんじゃない？と思う人もいます。が、個人的に書きたいのは、ゾンビパラダイスである程度原作に沿いながら、暴れるという物なので、妄想爆発をやり過ぎたら、どこかで詰まりそうなので、改訂です。

とりあえず変わるのは

- ・ 転生は原作開始3日前
- ・ 能力の使い方を既に把握
- ・ 原作開始3日前までの記憶は継承されている
- ・ 亜沙さん出ません（妄想爆発しすぎました……
- ・ 募集した他作品からの女の子参加ありません（募集したのにすいません……

今のところはこのぐらいです。

夏休みの宿題が終わり次第速攻で書きます。

では。

## 0 - 1 (前書き)

プロローグだけは少ししか変更ないです。

オレの名前は潮目くしおのめ>晃くアキラ>

少し現代の日本人とは感性がズレてるオタクな高校生だぜ。

ん？何がズレてるかって？それは、オレが人が血しぶき上げて死ぬのが好きだったり、ゾンビがリアルにいる世界に行ってみたいと思っ  
ているからだ。まあ、勿論自分が死ぬのは嫌だがな。死ぬ時は自分の  
寿命で死にたいしな。

話は戻る？が、オレ的には、リアルなゾンビがいる世界って線だと  
学園黙示録の世界が個人的にはいいな。だって、走ったりするゾン  
ビなんて他の漫画とか映画、ゲームじゃ見ないし、走ったりする方  
が面白そうだしなww

そんな、オレこと潮目 晃は只今意味不明な状態に陥っている。

見渡す限りの白い空間…

「ここ…どこぞ？」

ほんとーにここがどこか教えて欲しいよ… あ、それと、オレがこ  
こに居る理由も。

「ならワシが答えてやろうでわないか」

ん？誰だこいつ？

「おい！お前は誰だ？いつからそこにいた？」

「いつからと言われてものう、お主にも見えるようにしたのは今じゃが、ワシは前からこの空間にいるしものう。」

「どういう事だ？前からいるがオレに見えるようにしたのは今だともしや、コイツは人間ではなく別の何かなのか？だが、それ以前にこの空間の説明とオレがここに居る理由をまだ聞いてないぞ。」

「いや、それはお主がワシの正体を聞いてきたからじゃろが」

「そついやそうだったなあ。ん、待てよ。何でオレの思考がコイツには読めるんだ？」

「うむ、それはワシの種族のもつ特殊能力のようなものです。ワシの正体、いやワシらの正体は神などと言われておる存在じゃ、故にワシらよりも下位の存在の思考が読めるのじゃ。」

「マジか。オレ、リアルに神にあつまつたぜ。そついやオレがいる理由は？」

「それと、新たな疑問だ、こいつはワシらよりも下位の存在の思考は読めると言った。なら、神に対する上位存在ってのはなんだ？つか、しゃべらなくても会話が成り立って便利だなwww」

「まず、お主がいる理由じゃが、それはワシが故意にお主を殺した。それと、神に対する上位存在というのは、創造主というすべての理、存在、世界を作った方じゃ。」

へえ、そんなヤツがいるのか。ってちょっとまで、今こいつ、オレを故意に殺したのがここに居る理由だって言っただけ、ならオレは死んだんだよね、しかも寿命でもなくミスでもなく神が故意に殺したのが理由って言っただけな…

「おい、神という名のゴミ、オレがここに居る理由は故意にお前が殺したかららしいな…。思考が読めるってんならオレが誰かに殺されるのが嫌いってのは知ってんだろ???」

「いっぺん逝かすか?こいつ。今のオレならできる気がするぞwww  
ww

「まあ、待て。ワシがお主を殺したのはワシの探していた性格をもった人物というのがお主にピッタリで、その者にしてもらいたい事をするにはここに来てもらうしかなくて、それでお主を殺したのじゃよ」

「とりあえず話を聞いてやろうじゃねえか」

「そっぴやオレ、キレてから普通に会話し出したな。まあ、いっか。」

「うむ、してもらいたい事というのは転生じゃよ。しかも、生存フラグを建てなきゃいかんようなハラハラした世界におく」

「ん?生存フラグを建てなきゃいけない世界に転生で。しかも、オレがピッタリってことは、もしかして!」

「おい、神もじゃ、オレに転生してもらいたい世界ってのはもしかしてリアルゾンビが居る世界なのか?!」

「よく、気づいの。そうじゃ、お主に行ってもらいたい世界とい  
うのはリアルゾンビが居る世界、学園黙示録の世界じゃ！」

「どうじゃ、お主にピッタリじゃろ。」

マジかよ……。よつつつしやーーーー！！！！

神、ゴミとかいってごめん！！！！あんたいいやつだよ！！！！！！

「しかも、ワシの力で好きなだけお主のことを強化（能力付加）し  
てやるぞ。」

「マ・ジ・で………？」

「真剣、又は本気と書いてマジじゃよ」

ふふふ、強化か、あの世界を楽しみたいし、かといって弱いのは  
却下だな。どうしようか。

「よし、決めた！」

「ほう、何にしたのじゃ？言ってみろ」

「じゃあ、最初に、今から言う人物の経験・技能・技（業）と言っ  
た中の人物のいいところりした身体能力をくれ。」

「うむ、分かったぞ」

「じゃあ、言うぞ。草壁 操、ザ・ボス、雷電、ソリッド・スネー  
クの4人だ。」

「うむ、分かった」

「次は能力だ、無限の剣製の銃ver.で、もち固有結界で世界侵蝕可能とアイオンの眼の副作用（代償）をなしにしたヤツをくれ。あと、能力じゃないが草壁七剣をくれ。」

「うむ、分かったぞ。だが、いきなりチート過ぎではないか？それと銃の方はMGS関連なら銃以外でも出せるようにしておくぞ、その方が便利じゃろうて」

「まあ、自分でも行く世界にしたらチート過ぎだと思いがあくまで保険だ。それから、銃の方はありがとな。」

「最後はさっき言った人物達の体に＜奴ら＞化しないように独自の抗体をもっているようにすること、吸血鬼の真祖並みの回復力だけをくれ。＜奴ら＞化しなくても肉を持っていかれたまんまってのはかなわないからな。」

「うむ、分かった。それで最後じゃな」

「ああ、最後だ。……って言いたいが忘れてた。さっき言った能力の使い方を頭に入れくれ、使えなかったら宝の持ち腐れだからな。」

「そりゃそうじゃの。それもやっておくか。」

「では、本当に今ので最後だな？」

「ああ。」

「そうか、ではお主を送り出すでしょうか。その扉をくぐれば転

生するようになつておる。着くのは原作開始の3日前で立場は主人公の兄だ。着いたら記憶が継承されるはずじゃからコミュニケーションは心配せんでいい。ではな。」

「ああ、分かった。親切にありがとうな。」

そう言つてオレは門をくぐつた。オレが行きたかつた学園黙示録の世界に向かうために。

## 0 - 1 (後書き)

とりあえず、1日1稿短めでいいからしたい

## 0 - 2 (前書き)

ヒロイン悩む。

個人的には静香先生がいいのだが……

「知らない天井か。」

部屋を見る限りだと黙示録の世界に来れたかは判らないが、神に会う前に住んでいた部屋ではないようだな。

さてと、現状は……

（記憶継承中）

なる程、此処は寄宿舎の俺の部屋か。

えーと、クラスは3年C組。

学校での大方のイメージは、不良達をシメてる番長。頼れる兄貴分。

成績は授業をよくサボるが、学年十位と好（良）成績。

サボってもあまりお咎めがないのは、成績が良いのと、個人的に理事会に金を渡しているからか。

金の出所は……

なる程、株の取引ね。取引時は偽の個人情報を使用か。

今のところはこの位の確認でいいか。

しかし、この記憶の通りなら、絶対に神がある程度の手回しをしてるな。

オレが宿るまでに、一般人にはおかしい所が少しあるからな。

「兎に角、飯だな。1時間後には、いつも登校してる時間になるよ。うだし。」

食事風景や準備の描写？  
なにそれ、美味しいの？

（1時間後）

寄宿舎を出ると、金髪のいかにも不良です、ってやつに声をかけられた。

「晃さん。おはよう御座います。」

ええっと、コイツは確か原作にも居た奴だよな。

名前は……、たしか

「角田。朝から元気だな、お前は。」

「いえ、晃さんだからこんな挨拶をしたんですよ。他のヤツにはしませんって。」

「そうか。ところで、彼女はまだ出来ないのか？」

「ウツ……、晃さん。朝からその話しは止めて下さいよ。なんか、惨めな気分になるじゃないすか。」

「悪いな。そんな気持ちで聞いた訳じゃないんだ。」

「謝るだなんて。そんなことされたら、俺が他のヤツにボコされま  
す。」

「ふっ、わかっててやった事だ。気にするな。」

そう言いつと、オレは歩みを速めた。

なんか、後ろから

「ちょっと、晃さん。冗談も考えて言っして下さいよ。」

などと聞こえるが、無視だ。

く放課後く

ん？授業風景は書かないのだった？

授業風景なんか書いても面白くないだろ。

まあ、結論だけを言っと。

1限、2限、5限はサボった。

サボらなかつた授業は、体育と家庭と世界史だったからだ。

体育は体を動かすのが楽しい。家庭は調理実習だったから、菓子を  
作りに行った。世界史は先生の小話しが面白いから行ったただけだ。

ってオレ、誰に話してるんだ。なんか、変な電波が……

そんな調子でオレの転生初日は特に何もなく、終わった。

## 0 - 2 (後書き)

この小説の角田くんは典型的な小悪党です。  
強い者にはへりくだり、弱いと思った者にはこうあつてきます。

静香先生で思い出したんですけど、ゼロ魔のバストレボリユーシヨ  
ンと静香先生ってどっちがデカいんですかね？その……、膨らみがW  
私は互角に一票ですw w

## 0 - 3 (前書き)

無理やりですが能力だけは書きかえる前と同じにしたいので、ご了承ください。

「原作開始2日前」

「あと、2日か。なにもする事がねえから暇だな。」

こんなことなら、原作開始の1日前に送ってもらえばよかったぜ……

「うーん、ほんと。暇だ。学校行って時間潰すか。」

と思って部屋を出ようとしたときに、備え付けの机の上に手紙があるのに気がついた。

「手紙？昨日はこんなもん無かったよな。なんか、気味悪いな。」

とか言っても何か分かる訳でもないので、正体不明の手紙を読む事にした。

「えーと、何々？」

「お前の居た世界は俗に言う観測世界と言う所じゃ。」

出だしを見るに、これは、あの神からだな。

「観測世界とは様々な世界の事を知る事が出来る代わりに、その住人はお前たちで言う魔法のような力を使えないという制限を受ける。」

「しかし、下位次元の世界に行ったときには、その制限は解放されるんじゃない。」

「下位次元の世界というのは、お前たちでいう物語の世界の事じゃ。」

「お前は学園黙示録の世界という、お前たちの世界よりも下位の世界に向かった。」

「じゃから、何か能力が発現したかと思ってな。調べたんじゃよ。」

へへえ、それで。

「能力の名前は便宜上『変革・改革』と呼ぶ。」

「基本的に儂等、神が暇潰しで、誰かの人生を見る時は、基本的に観測世界の人間を選ぶ。その方が、能力付加とかの幅も広いし、移動に上から下に落とすだけじゃから余り労力も使わんしの。」

「更に言えば何かしらの願望も強いから、制限解放時の発現した能力が個性が出て面白いからな。」

「話が逸れたの。お前に発現した能力は、あらゆるモノを自分のイメージが及んぶ範囲なら色んな事に変えたり、それに何かを追加したり出来る能力じゃ。」

なに、そのチート……

「じゃがの、その力の幅広さ故、固有結界扱いになってしまっただけな。ここからが問題なのだが。」

「普通の人間は固有結界が2つということはありません。観測世界の人間でもじゃ。」

「しかし、2つの内の1つは神が付加したことだから、消えん。もう1つもお前自身の心だから消えることはない。だが、固有結界が2つと言うのは儂等的にも嬉しくないし、持っている本人にも心のバランスが崩れやすくなるというデメリットがある。」

「そこで、勝手だがお前自身の能力に制限を付けた。」

何でオレの方に制限を付けたんだ？

まあ、オレは銃が使いたいから神の方の能力に制限をかけられたりする方が嫌だから、別にいいか。

「制限をお前の方とした理由じゃが。ただ単に労力が少なくて済むから、と儂に望んだ能力に制限を付けたらお前が怒りそうだと思うたからだな。」

「用件は以上。紙を破れば能力の扱い方と制限がインプットされるでわの。」

そいう事なら早速破いてみるか。

～インプット中～

ほうほう。こりゃ銃との相性バツグンだな。

それに、この程度の制限ならデメリットはそんなにないか。

よし、今日は学校サボってこの能力を試すと思いますか。

## 0 - 3 (後書き)

主人公の設定は、原作開始時に多少の修正を加えたものを投稿します。

## 0 - 4 (前書き)

昨日は友人達と、友人Kくんのおじいちゃんが所有している山でサバイバルゲームをずっとやっていたので、投稿忘れてました……

〔原作開始前日〕

「とうとう明日が開始の日か。昨日の内に追加（？）の能力は試したし、明日が楽しみだな。」

平和な日常とは明日でお別れなんだ。

最後の平和な日ぐらいは、まともに授業に出てやるか。

「とりあえず、制服に着替えるか。」

〔学校内（HR終了直後）〕

「おはようさん」

ホームルームがちょうど終わった時に学校に着いたオレは、そのまま何食わぬ顔で教室に入るときに、そうクラスメイト達に挨拶をした。

「お、晃じゃねえか。珍しいな、1限目はお前の嫌いな古典だつてのに、教室に来るなんて。」

オレが1限目が古典なのに教室に居る事を珍しく思った、クラスの男友達の話し掛けてきた。

記憶によると去年も同じクラスだったらしい。

「なに、今日は眠くないからな。それに、オレだっていつもサボってる訳じゃあねえだろ。」

「そりゃあ、そうだが。次にまともに受けるのは、3日後の授業でも大丈夫って言ってなかったか？」

「気が変わったんだよ。」

「なんだよ。ってきり晃が優等生になったのかと思っただぜ。」

「オレは十分、優等生だよ。オレの成績知ってんだろ。」

「確かに、テストは良い点かも知らねえが、授業態度が悪過ぎだろ。」

「そう言うモノかねえ？おつ、チャイムが鳴ったぞ。席に戻つとけ、古典の先生はねちっこいからな。」

「ああ、そうだな。じゃ、休み時間にでもまた話すか。」

明日からゾンビパラダイスになるのに、知らない者たちは普通に過ごしてるよな……

明日の、あの放送を聞いたらどうなるか、見ものだな。

く昼休みく

「晃ー。お前、昼はどうするんだ？」

昼か、そついや考えてなかったな。

どうする……………？

そつだ、購買でパンでも買って、主人公……、じゃ無かった。弟を弄りに行くか。

「オレは購買でパンでも買って、弟を弄りに行くかな。」

「弄るつてお前なあ……。まあ、晃だし。そんな事よりも早く行かねーと、いいパンがなくなっちまうぞ。」

「言われてみればそうだったーじゃ、出撃してくるわ。」

そうクラスの男子に言い。学校の先生が見たら、必ず止められそうなスピードで購買まで駆け出した。

ー購買で奮闘中ー

ふう、なかなかの戦利品かな。

抹茶メロンパンにカスタードコロネ、ピザパン。

「さて、行くか。」

たしか、ここだったよな。孝がいるのは。

オレが今居るのは、21Bと書かれた教室だ。

「邪魔するぞ。」

そう言って入ったのはいいんだが、肝心の孝がいなかった。

どうしたものかと思っていたら、なんかイケメンが話し掛けてきた。

「孝のお兄さん。どうしたんですか？」

たしか、井豪永だったか。原作で速攻ゾンビ化した。

「井豪か。孝を探しに来たんだが、知らないか？」

「ああ、あいつなら四限目の授業をサボって、購買にパンを買いに行きましたから、多分いまごろは、サボリ仲間と屋上ですよ。」

「そうか。今から屋上に行っても飯を食う時間がなくなるからな。井豪、一緒に飯食わないか？」

「別にいいですよ。今日、麗が友達と食堂に行っちゃったので、誰も食べる約束をしたヤツがいないので。」

- エネルギー補給中 -

飯を食った後、オレ達は会話を楽しんでいた。

「……それで麗と付き合う事になったんですが、そのせいで孝が不機嫌になってしまつて。どうにかなりませんか？」

「それはオレに言われてもな……。孝とお前、あと麗の三人の問題だろ。一回、三人で話してみる。」

そこで、昼休みの予鈴が鳴った。

「予鈴か。オレは教室に戻る。さっきの話だが、自分たちで解決してくれ。表面的なところでは手は貸せるが、根本的なところは無理だからな。」

そう言つてオレは自分の教室に向かった。

永、お前の悩みは明日になれば自然と解決するよ。

なにせ、お前は消えるんだから……

（放課後）

結局、孝には会えず終いか。

いくら記憶があるからって言っても、先にコミュニケーションはとっておきたかったのだが。

無理だったものは仕方ないか。

さあ、ゾンビパラダイスが来るぞ。

## 0 - 4 (後書き)

明日から3日間。家族と旅行に行くので、更新は25日か26日になります。

## 主人公設定とか（前書き）

改訂前とは多少違う所がありますが、読み比べないとわからないかもしれません。

## 主人公設定とか

名前：小室<こむろ>晃<あきら>

容姿：MGSの雷電の灰色の髪ver.

目の色は蒼と金のオッドアイ

\*髪の色は雷電のようなシルバーブロンドではなく、あくまで灰色<sup>グレイ</sup>

性別：男

身長：181cm

一人称：オレ

性格：SかMなら、S。

自分が知っている人や気に入っている人なら手の届く範囲では助けるが、覚悟を決めた人間などは例え恋人でもその覚悟を汲んで、助けはしない。また、嫌いなヤツは容赦なく切り捨てる。

身体能力1：基本的な身体能力のベースは雷電（MGS4）になっているため、8階建てぐらいの高さからなら落ちても強化なしで普通に着地可能。強化なしでイージス艦が自分に向かって突撃してきても力比べがガチで可能。動体視力は銃弾を軽く視認などなど色々  
と異常。

身体能力2：真祖の吸血鬼並みの身体回復能力を保有し、MGSの

ヴァンプのナノマシンが体に入っているので体が二つに切られたり、ナノマシンを止められない限りよほどの事では死なない（不死もどきの状態）、ただしグレネードやロケットランチャーなど真正面から喰らうと体の部位のほとんどが持っていられる（粉々になる・ただの肉の塊になる）ような攻撃などでは流石に死ぬ。

\*ただし腕一本や足一本ぐらいならナノマシンが即座に傷口を塞ぎ、真祖の回復力によって腕・足が再生出来るため動きは一時的に制限されるが致命傷ではない。

身体能力3：草壁 操から継承されたものの中に鬼の血が入っていたために妖力が、また、草壁 操のような達人なら使える氣が草壁 操の経験等によって使用可能になっている。

妖力・氣：保有している総量などは、氣は一般人、妖力は草壁一族の下の上ぐらいの実力者とあまり変わらない量だったのだが、自身の持つ固有結界により総量の変更が出来るので、量などというものに意味は無い。また、この力を使う事によって自身の身体能力を強化したり武器などの強度を向上させることができる。

魔力・魔術回路：保有している魔力の総量や魔術回路の本数などは、魔力は裏世界（魔術・魔法世界）に関わっている人間の实力者でいうと中の下ぐらい、魔術回路は30本であるが、自身の持つ固有結界により妖力・氣と同じように量や本数の変更が出来るため、量や本数などに意味は無い。また、この力を使う事によって妖力・氣とは強化の系統は違うが、自身の身体能力を強化したり武器などの強度を向上させることができる。

草壁七剣の収納場所：草壁五宝として数えられている、小烏丸天国、雷切、火車切広光、鉋切長光、真打・童子切安綱は、草壁 操から継承された技術などに含まれていた術によって指の爪にそれぞれ一本ずつ収納されており、草壁 操の持つ、鬼切、蜘蛛切は同じく継承された技術に含まれていた術によって両腕に収納されている。

・スキルや能力（長いのは幾つかに区切っています）

CQC・極：ザ・ボスの持つ極限まで鍛え上げられたでCQCあり敵の持つ銃などが、自身が構造を把握している銃ならばCQCをかけると同時に武器分解可能な兵士泣かせなCQC。

\*スキル使用後の反動は純粋な身体技能であるためにない。

ウェポン・マスター（ver・ガン）1：あらゆる銃火器を極めたもののみが持つ事のできるスキルであり、あらゆる銃火器などの反動等が分かっているために、銃を指切りせずにフルオート射撃を行った場合でも衝撃の吸収が効率的で、無駄弾などが殆どない上、熟練の兵士でさえも片手で扱う事の出来ない銃でも片手で扱う事が可能。

\*スキル使用後の反動は純粋な身体技能であるためにない。

ウェポン・マスター（ver・ガン）2：銃の射程や距離による銃

弾の威力減衰なども分かっているために、ハンドガンなどの威力減衰が激しい武器でも効率的な射撃が可能で、スナイパーライフルなどでは観測手なしでも、弾のズレなどを予測し、修正、命中させることが可能である。

\*スキル使用後の反動は純粋な身体技能であるためにない。

無限の銃製<アンリミテッドガンズワークス>1：無限の剣製<アンリミテッドブレイドワークス>の銃ver。銃というジャンルに分けられているものなら制限無しに取り出せる（投影できる）ことが出来る。更に、この能力の元となった無限の剣製<アンリミテッドブレイドワークス>のように、多少精度は落ちるが、服なども取り出せる（投影できる）ようである。

無限の銃製<アンリミテッドガンズワークス>その2：普通に製造されている物の威力を1とした場合、ハンドガン、サブマシンガン、アサルトライフル、軽機関銃、スナイパーライフルはとっさに出した場合でも投影精度に問題がないので威力は変わらないが、ロケットランチャーは急いで取り出した物は0.4〜0.7、対物ライフルや大口径の銃（重機関銃・ミニガン等）は急いで取り出した物は0.5〜0.8と攻撃力がさがる。

無限の銃製<アンリミテッドガンズワークス>その3：神のサービスによりMGS関連なら銃以外も取り出せる（投影できる）ようになっていたため、銃とはほど遠いジャンルに分けられているものや、現在の科学力では作れないようなものでもMGS関連ならば取り出す（投影できる）ことができる。

例、メダルギア・アーセナルギア・ナノマシン・ソリッドアイ・ノ

ーマッド（輸送機）e t c .

無限の銃製くアンリミテッドガンズワークス>の反動等：能力使用後の反動は銃などの物ならば反動はないが、メタルギアなら二日酔いの二倍レベルの頭痛が四日間、アーセナルギア級のものなら、一週間〜二週間ほど意識が飛ぶ。

\*反動は使用後、30分〜1時間後に発生

変革・改革：元からもっていた能力で、能力の強さから固有結界扱い。能力としては、あらゆるモノを自分のイメージが及ぶ範囲なら色んな事に変えたり、それに何かを追加したり出来る能力であったが、諸事情で神から制限がかけられている。

無限の銃製くアンリミテッドガンズワークス>と変革・改革の併用：変革・改革の能力で銃を取り出す時にオプションパーツの付加や改造、さらには何かの銃を元にしてオリジナルの銃が簡単に作ることができる。

劫の眼（アイオンの眼）：未来視の眼。尚、真の能力を発現（使用する）させれば未来を掴み取ることも出来る眼でもある。尚、主人公は未来視の眼であることは知っているが、真の能力のことは知らないため、真の能力を発現（使用する）ことは無いと思われる。

特殊抗体：神により与えられた主人公のみが持つ抗体で、<奴ら>化しない抗体や、訓練された者でも即死するほど強力な毒などに対

する抵抗力も持つ。

主人公設定とか（後書き）

やっぱチート過ぎるか……………？

## 1 - 1 (前書き)

昨日、新たに学習した。

ESCキーを押すとデータが消えるということに.....

すべてが終わってしまった日の前夜  
僕は夜更かしをした――――

〈孝 side〉

森田と別れ、屋上で昼寝をしようとしていた僕は偶然にも見てしまった……

学校の先生が不審者に腕を喰いちぎられ、倒れたかと思うと近くにいた別の先生の首に噛み付いた光景を……

「な……、なんだってんだ、一体……」

<その時>

<どうして即座に動けたのか自分でもよく分からない……>

<ともかく、そうしなければと思ったんだ>

授業をサボっていた僕が教室に入って来たことに対して、先生は怒ったが僕はまるで聞いていなかった。

この時僕は、麗と逃げる事しか考えていなかったのだから。

「逃げるぞ！……こい」

「え……」

僕は麗の手を握って教室を出ようとしたが、事情を知らない麗は抵抗して動くとはしない。

「一体何よ！今授業中……」

「いいから来いっ！」

麗が最後まで言う前に僕は無理やりつれて行こうとした。

そして、それを見かねた永が僕の腕を掴んでどういう事が聞いてきた。

「孝、麗をどうするつもりだ！」

それに僕は永の耳元で小声で答える。

「校門で教師同士の殺し合いが起きてる。ヤバいぜ……」

「……ッ！」

永の息を呑むのが感じられた。

それから一呼吸空けて、永が小声で聞いた。

「……………本当なのか、孝？」

「こんな嘘について何か得でもあるか？エイプリルフルでも、もう少しマシな嘘をつく筈だろ。」

「それに、多分だが。この殺し合いは街でも起きてる可能性が高い。教師同士の殺し合いが始まったのは、校門にしがみついた不審者が原因みたいに見えたし……………」

僕の必死な声に永が頷き、同意を示してくれた。

「待つてよ！ちゃんとした説明を受けない限り私は……………」

パンツ、と乾いた音が教室にした。

なかなか言う事を聞かない麗に痺れを切らした僕が、彼女を平手打ちしたのだ。

「いいから、言う事を聞け！！」

先導するように教室を出た僕に  
衝撃を受けた、渋々つといった表情を浮かべた麗と、その背中を押している永も麗に続いて教室を出た……

走って移動している時に麗から説明を要求されたので、僕は永にした説明を麗にもう一度した。

少し走った場所で永が僕達を止めた。

「待て」

「なんだよ。忘れ物かなにかか？」

「孝の話が本当なら身を守るためにも必要になる。学校以外でも起きてる可能性が高いんだろ？」

そう言つて永は、清掃道具の入ったロッカーにあるモップの棒を抜き、麗に渡し

近くにあつた金属バットを僕に渡した。

「永。お前はとうするんだ？」

「それでも俺は空手の有段者だぞ。そこらの格闘術を知らないヤツや鍛えないヤツにはそうそう負けはしないさ。」

「にしても……。とにかく学校を出よう。家族も心配だし。」

「実家か……」

「まず警察よ！！お父さん警部補だから連絡したら直ぐ来てくれる……」

「ほら、携帯だ。僕以外持っていないだろ？貸すからかけてくれ。」

しばらくして繋がったみたいだが様子がへんだ……

「麗、どうかしたのか？」

「うそ……。110番がいつぱいだなんて……。そんな……」

「どうやら、孝の言ってた可能性とやらが当たってたようだな……。クソッ!!」

永が現状を知って悪態をついている。

そこに、校内放送がかかった。

「全校生徒、教師に連絡します!! 全校生徒、教師に連絡します!! 現在、校内で暴力事件が発生しています! 生徒は先生の指示に従って直ちに避難して下さい!! くりかえしま……」

そう言ったところで放送が途切れた。

「ようやく気づいたかって……。まさか!」

次の瞬間……

「ぎゃあああああああああああ……!!……!!……!! あっ! うわ!! やめろ!! 助けて!! たすけ!! ひいっ!! 痛い! 痛い! 痛い! 痛い! 助けて!! 死ぬ!! ぐあああああああ……!!……!!……!!……!!……!!……!!……!!」

静寂に校内が包まれる。



能力のあるオレは特にこれといって用意するものもねえし。

とりあえず、カロリーメイツぐらいはポケットに持っていくか。

「って原作開始は今日だけど、時間知らないんだよね。朝から授業行くしかないか。」

―通学中・HR前の教室―

「おお、晃。おはよう。」

「にしても、お前最近どうした？昨日は古典の授業をサボらないわ、今日はホームルーム開始前に来るわで。」

昨日も話し掛けてきたヤツが教室に入ってそうそう質問してきた。

「別にいいだろ？暇だったんだから。オレだって時間を潰すのに授業を受けるときぐらいあるわ。」

「俺の記憶がお前はそんなキャラじゃない！っと訴えているのだが、そういうことにしておくか。」

「なんだ、オレに対するそのイメージは。オレってどのくらい素行の悪いヤツと思ってんだよ。」

「うーん。学校1?。」

「イメージ悪すぎだろ……。言っとくが、オレより素行の悪いヤツ

なんざもつというわ。煙草やつたりしてるやつとか、学校来ねえやつとか。」

「たしかに、煙草には負けるか。」

「煙草だけしか反応しねえのかよ。まあ、いいか。そろそろうちの担任が来るから、席に戻れよ。」

「分かってらあ。俺はお前と違って授業とかは真面目なんですね。」

「真面目なだけで成績伸びたら苦労はしないだろ？」

「うつ、それを言われると……。あつ、先生来たな。晁、話はまた後だ。」

「了解。」

オレ達が話し終わるのを待っていたのか、すぐに挨拶が入った……

……

―放送1分前―

なかなか放送がはいらないな。そろそろだと思っのだが。

流石に、授業に飽きてきたしなあ。

キーンッ



まあ、この放送聞いたらこうなるか。

「おい！！ドア開ける！！！！」

「「どけ！！！！」」

「「邪魔だ！！！！」」

「「急げ！！！！」」

みんな急ぐねえ。

「さて、オレもそろそろいくか。」

「とりあえず、孝は大丈夫だから静香先生を助けにいくか。」

さあ、世界の崩壊の始まりだ！！！！

〈 晃    s i d e o u t 〉

## 1 - 1 (後書き)

すいませんが、しばらく2日に一回更新にします。

夏休みの宿題はあらかた終わったのですが、8月上旬にスキューバダイビングのライセンスを取りに行くので、その勉強が終わり次第、1日一回更新に戻します。

・カロリーメイツ

この世界のカロリーメイト的存在。

## 1 - 2 (前書き)

英語で書いてるところは、エセ外国人みたいな発音です。

\*感想で指摘された箇所があるので、少し加筆しました。

（晃 side）

「たしか、保健室は一階だったよな。」

「校内の人間は、ほとんどが喰われて＜奴ら＞化してるし、一階には最低でも50から100はいるだろうし……。銃と刀使うか。」

能力使って、っと

「銃は数が分からねえし、取り回しの良さもあるからSMGにして、刀は鉋切長光にするか。」

・現在の装備

右手、鉋切長光（脇差しの長さぐらいにした状態）

左手、FN P90（サプレッサー付き）

「こんな感じでいいか。それじゃあ行きますか。」

教室の外に出ると、＜奴ら＞がいきなり居やがった。

襲いかかってきたので、鉋切長光で首を切り落とす。

んで、それを踏む。

ベチャ

「おうおう、脳みそ撒き散らして。どんだけ脆い頭だよ。」

それとも、雷電ぐらいの身体能力だと素手でも倒せるのか？

「まあ、汚れるから試さんが。」

あああああああああ……

「この程度の物音で集まんや。でも、銃を使ってみたところだから、今回は感謝するぜ。」

「ま、聞いてないだろうけど。……数は15か16ぐらいか。」

そう言っただけはP90を構える。

「貴様らにこの鉛弾の嵐。耐えきれるかな？」

パパパパパパパパパパパパパパパパ……

P90が5・7ミリ弾という低い反動の弾であるということと、歴然の兵士の経験がフルオートで撃っているにも関わらず、ほぼ全弾が命中する。

「うあ、さすがにグロテスクだな。」

撃ち終わってく奴らが居た方向を見ると、人肉のミンチが出来上

がっていた。

「5・7ミリ弾でこんなになるとか、マジ脆いな。」

「が、面倒なのは数だな。世界の七割が＜奴ら＞化したと仮定したら、約45億5万だからな。」

「しかも、原作では干からびたりする描写がなかったから、数は自然に減らねえだろうし。」

「数の暴力は怖いからな。」

とりあえず、学校出るまでは暴れるのは止めようかな。

下手に囲まれたら再生が追いないだろうし、不死ではないから多量出血は抑えねえと。

まあ、ナノマシンに貯蓄があるから多少は大丈夫だが。

「とにかく、移動だ。」

――1階到着――

「うげ、やっぱり数だけは居るな。原作で冴子さんが相手しなかったのも分かるぜ。」

その数およそ、70。

「ほとんどが打撲みたいな痕があるから、階段で逃げたところを  
く奴ら>に喰われて死んだ人間かな？」

「にしては少ない気がするが移動したのか？数が少ない方が楽だが」

でも、保健室行くなら銃は戻した方がいいか。

代わりに刀を出して、持ち直してっと。

・現在の装備

右手、雷切

左手、鉋切長光（脇差しの長さぐらいにした状態）

これでよし！

ああああああああああああ……

「職員室に寄ることも考えて、多めに倒すか！！」

右手の雷切に妖力を刀の容量限界まで注ぎ込み、プラズマの刃にする。

「ライトセイバーならぬ、ライトKATANAってか。」

「とりあえず、突っ込む！！！」

オレの声に反応して＜奴ら＞が寄ってくる。

一番手近なやつから、＜奴ら＞の体に刀で斬り刻んでいく。

「さあ、プラズマの刃の威力はどんなもんだ!？」

出力が高すぎたのか、斬られた＜奴ら＞の体から蒸気が出るが、一瞬でそれも消える。

というか、＜奴ら＞の体自体が蒸発した……

「……………なにこれ？人体って蒸発すんの!？」

驚いてるところに今度は4体がまとめてきた。

「ちょっとぐらいは考えさせてくれよ!」

そついいながら、今度は放電する程度まで出力を下げた雷切で3体、鉋切長光の刃を伸ばして1体の頭を突き刺す。

が、雷切で斬った1体が首に刃が当たらず胴体に当たったために襲いかかってこようとしたが、動きが急にガクガクし始めた。

「もしかして。人間が元だから電気信号を阻害したら動きが鈍くなるのか？」

そう言いながら、止めを刺す。

「この際だから、他の刀も試すか……?」

思いついたら即実行。

瞬時に雷切を火車切広光に。鉋切長光を小烏丸天国に換える。

まずは火車切広光で＜奴ら＞の体を斬る！

ジュウ……

「うあ。肉が焼けてるわ。」

2撃目は出力を限界まで高めたので斬り込む。

ドサッ！

「溶断しちまったよ。何千　だよ、これ？」

とか言ってる間に今度は10体ほどが壁のように迫ってきた。

「塊魂か！お前らは！！」

小烏丸天国に妖力を溜める。

「団体様はお断りだ！！」

刀を横に振りながら、妖力を解放する。

「『戦術殻・空』　つか！」

横向きに解放した妖力の刃が＜奴ら＞を斬り裂く。

「やべー、飛ばしすぎた……」

＜奴ら＞の塊という名の壁が崩れた先を見たら、校舎の壁も削りながら後ろの＜奴ら＞も倒していた。

残り、約10……

「……………これだけ片付いたら、概ね安心だろ……………」

「決して暴れすぎではない筈だ……………。誰も見てない事を祈るか。」

そう言いつつ、保健室の前まで移動。

「妖刀はまだこの段階で見られるのは不味いか。」

火車切広光と小烏丸天国を戻し、雷電の高周波ブレードに装備を換える。

それからドアに手を掛けて、ドアを開いた。

ガララッ！

「誰だ！？」

入っていきなり点滴とかを吊す棒？で叩かれかけたので、受け止めながら自己紹介をする。

「待て待て、オレは人間だ。動く死体と間違えるな。」

「あつ、すみません。てつきり……………あの……………ゾンビかと。」

「まあ、こんな事態だ警戒するのは当たり前だが、いきなり殴りかかるな。」

「オレ以外だと、剣道部の主将ぐらいしか今のは反応できねーぞ。」

「その……、すいません。」

「分かったなら、コイツを下ろしてくれないか？何時まで上げておかなきゃならないんだ？オレは。」

「すつ、すいません！！」

謝ってばっかだなコイツ。

まあ、原作ではそれなりの覚悟は有った方だ。ただ単に、人見知りなだけだろ。

てか、オレの高周波ブレードに突っ込まねえのか？テンパリ過ぎてそこまで気がまわってないのか？

まあ、いい。

「ところで、静香先生は？」

「あ、先生なら今使えそうな物をカバンに……………」

ピシッ……………  
バリインッ！！

「ヒイ……」

「あれだけ減らしたし、残りはかなり距離があつた筈なのになんでだ？やっぱ、暴れすぎたか………？」

「まあ、いい。おい、少し下がってろ。」

「近くに5体、廊下に8体か……」

手前の2体をまず潰す！！

「破ッ！」

高周波振動により格段に威力が上がった刀で＜奴ら＞を斬り伏せる。  
3体目にかかるのと、したところで廊下の＜奴ら＞が減っていることに気がついた。

「はあああ！！」

この息づかいは冴子さんか！

……いや、原作知ってるから分かったんだけどさ。

「中に居る者！無事か！！」

「はいよ。無事だぜえー。」

「その声は晃か！」

「当たたり〜。ついでに言つと、援軍感謝。だけど、おしゃべりは……」

「こやつらを全て……」

「倒してからだ!」

――纖滅中――

全部倒したか……

「冴子さんや、こっちは終わったぞ。」

「こちらも終わったところだ。」

ふう〜、やっと落ち着けるか。

「おい、終わったぞ。」

隠れてるヤツとあたふたしてる静香先生に終わりを報告する。

「その、ありがとうございます。助けていただいて。2人とも強いですね。」

「そうね〜。確かにすごかった。私からもお礼を言うわ。」

「落ち着いているところで、悪いが。ここから移動しないか? 先ほ

どのように、また何時襲つてくるとも限らん。」

「冴子さんの言う通りだな。ここじゃ、バリケードも作れんし。自己紹介は……、落ち着いてからでいいか。」

「それじゃ、職員室にいきましょう。あそこなら、バリケードとかも作り易そうだし、車の鍵も職員室に置く決まりだから、鍵も取りにいけるし。」

「じゃあ、職員室にいきましょう。」

「そうだな。よし、静香先生と……悪い、やっぱ自己紹介しとくべきだったか。名前なに？」

「石井かず です。学年は二年です。」

「そうか。名前を覚えてもらっておいて悪いが、オレの自己紹介は職員室に着いてからにしてくれ。」

「冴子さん。」

「なんだ？」

「静香先生と石井の護衛を頼む。オレは前衛にまわって、襲ってくる奴らへの相手をする。」

「分かった。しっかりと護衛はするから、攻めは任せるぞ。」

「了解。」

「それじゃ、移動開始だ。」

## 1 - 2 (後書き)

武器解説表。

作り直して、載せた方がいいだろうか？

### 1 - 3 (前書き)

投稿遅れたこと

内容がいつもより薄いのは、あとがき見ればわかります……………

あと、一週間程休みます。

それも、理由はあとがきに書いておきますので……………

―保健室前廊下―

く 晃 side く

たしか、職員室は管理棟の3階だったか？

「とりあえず、職員室に行くためにも管理棟に渡るぞ。」

さてと、ルートはどうするべきか。

やっぱ、原作の冴子さんみたいに校舎内を通っていくか？

わざわざ、数も減らしたんだし。

「ルートはまずこの校舎の3階に行く。そこから渡り廊下を使って、管理棟に移動して最後に職員室を確保。」

「質問はあるか？」

3人を見るからに、質問は無いようだ。

「じゃ、移動を開始する。」

―生徒校舎3階―

あああああああ

襲ってくるく奴らゝの首を高周波ブレードを使いバターをナイフで切るように、骨などの硬い部分の抵抗感を感じることなく斬っていく。

ベチャッ

切り落とした首が生々しい音をたてながら、廊下に落ちてゆく。

静香先生と石井は顔が引きつっているが、大丈夫だろう。

それにしても、保健室に行くときに数を減らしておいて正解か。

まだそれなりには残ってはいるが、密度は薄い。

移動は楽だろう。

「そういえば、気になってたんですけど。」

石井がオレに話し掛けてきたが、何だ？。

「その、右手に持ってるのって刀ですか？」

「保健室では、軽くパニックになって気付かなかったんですけど。」

やっぱり、パニックで気付かなかったただけか。

「たしかに、私も気になっていたところだ。刀のようだが、どこか機械的というか、鍛冶士が作った刀には見えないからな。」

冴子さんもかい。

「私もちよつと気になるのよね。切れ味だけ見ると、手術用の超音波メスみたいだし。」

静香先生までもか……

てか、先生は殆ど正解かよ。

「これは、高周波ブレードって言ってな。高周波発生装置が付いてる変わった刀だ。」

「コイツは高周波振動して威力・切れ味を上げてる、ハイテク日本刀。っと言ったところかな。」

オレの説明を聞いて、静香先生が納得したように首を振る。

「高周波ってことは、超音波メスとあまり変わらないのね。切れ味も納得したわ。」

全くわかってない、石井と、刀でもそのような事が出来るのかと冴子さんが静香先生に原理を聞いている。

まあ、オレは襲ってくる障害を排除しなきゃなんから、静香先生に任せよう。

後ろから

「私に聞かないでえ。」

と聞こえるのは気のせいだ。

―管理棟3階・職員室付近―

「3人とも各自で警戒はしてくれよ。職員室付近に襲ってくるのが居ないとは限らないからな。」

「特に冴子さんは護衛しつかりしてくれよ。」

「ふっ、私にそのような事を言うとはな。挑戦状として受け取ろう。」

お、言うこと言うねえ。

「僕も警戒ぐらいしか出来ないの、しっかりやりますよ。」

たしかに、今は武器を渡していないから護衛対象にしてるが、武器を渡し次第は前衛に回ってもらうぞ。

「私もその位は出来るわよ。」

いや、静香先生。あんたの雰囲気って言われても説得力は無いのだが

……

「それじゃ、気を引き締め……」

「きゃあああ！……！！！！」

「「「「！！！！！！」」」」

これは、沙耶が襲われてる時か。

「冴子さん！！」

「わかっている。此処は私に任せ、先に行け。」

「頼む。」

―職員室前―

「来る！なあ！！！！」

悲鳴がした方に行くと、電動ドリルでく奴ら>の頭を抉っている沙耶の姿があった。

が、まだ他にもく奴ら>がいるので安全を確保する。

しかし

「（原作より、右にいる数が多い！）」

そこに原作のような、いいタイミングで孝と麗が来る。

「孝！！麗！！」

「兄さん！？」

孝が驚いているが、後回しだ。

「オレは右をやる。2人は左を頼む！」

「…わかった」

2人とも数を見て一瞬、判断に迷ったみたいだが、そんな時間はな  
いと思ったのかすぐに承諾する。

……少し余裕がなさそうなので、氣で瞬動術を使いながら動く。

「破ッ！！」

一気に2体を片付ける。

「やあああ！！」

麗がモップの柄の先で左に居た1体の頭を突き刺し。

「おら！」

孝がバットでもう1体の頭を潰す。

「疾ッ！」

その間に今度は3体を片付け、周囲を警戒する。

「どうやら、全部倒したか……」

### 1 - 3 (後書き)

実は、季節はずれなのかはわかりませんが……………

「ノロウイルス」にかかりました……………

昨日、投稿できなかったのは病院で検査してたからです。

で、いつもより薄いのは病院行く前に書きかけていたものを無理やり切って、投稿したからです……………

休むのは、吐いたり下痢したりノロウイルス状態では執筆する体力がないからです。

てか、ノロウイルス二年前もかかったんだが……………  
これは、ヤバイ。

かかった事ある人なら分かると思いますが、インフルエンザよりしんどいです……………

私と言えた義理ではないと思いますが、皆さん  
お体にお気をつけてください。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4635n/>

---

学園黙示録に自ら向かった少年

2011年8月1日22時43分発行